大正八年九月一日發行　大正八年八月二十八日印刷納本　（毎月一回一日發行）　明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界



第十六巻九月號


ライオン歯磨
あなたの
歯を美しく
する歯磨は、
ライオン歯磨を措いて
ほかにはございません。
ライオン歯磨
ライオン石鹸
本舗 株式会社 小林商店
支店

女子青年

第十八巻
第六號

界目次

大正八年九月號

女子青年界 第十六巻 九月號 大正八年九月一日發行

會説

五十鈴川の畔にて

河井道子

九月號には何かせんと原稿用紙も揃へて、惶危しく歸省すると、其翌日から病院で或者を世話する役目が待つて居て筆執る暇がない。病人も大元氣でゐるし時日も切迫するし、靜な場所に行くが第一と思ひ程近い大神宮の神苑へと五十鈴川目掛けて一日朝早く院を出た。内宮に達すると先づ綠林翠樹の淸蔭涼味の我を此處其處に誘ひ、憩の場所を與へない。御宮の鷄が餌でも呉れると思ひてか時々後を追ふて來るもおかしく、御馬に嫌がる行水を大盥でさせる老爺の叱咜の聲も雅致に富んでゐる。參詣者が大鳥居の大並樹路に追々と增すので、横路に逃れ、低い石垣に腰打かけ、扨て是より少々讀物でもと、持ち來りしロイド、ヂョーヂ傳と、舊約豫言者の研究書とを出して、數頁讀み出したが、時々前を通る參詣者が怪訝な顔をしてか腹立しくて中止した。此の神聖な所で洋書を讀むは不敬なりと思ふて居るに相違なし、殊更社會主義者の嫌疑を受くるも此炎暑に御苦勞なりと、又も包を抱へて寂寥を探め、暫く五十鈴川畔を逍遙したが、僅に足の疲勞を覺えるのみで益がない。漸く川向に手入の怠たつた石段があるを發

見した、必らず人氣の冷めた社だなと獨り合點で昇り詰めると案の通りである。五十鈴川の流と、宇治橋を渡る足音とは微に聞えるも、欝蒼たる樹木が全景を被ひて、殆ど深山にある心地がした。緑蔭深き石段に腰かけて蒼天を眺めつゝ、又もロイド、チョーヂの親交を求めた。何と云ふ面しろい對照であらう――大神宮の膝下で、英國や宰相、イスラエルの豫言者と親むとは。餘り心地よさに我知らず假寢して夢は再び修養會を辿り居るも嬉しい。

昔ならば御神託と云ふのであらう、兎もかく思出多き修養會の印象を記して會説に代へんと思ふ。

□意と感謝

毎年修養會の準備時期になると、第一腦裏に浮ぶものは「ア、修養會の地所が欲い、海岸か山林かの佳境に集會に適當した建物と、景色に調和し住み心地の良い山家とが欲しい、其處に全國よりの姉妹が靈にも體にも有とあらゆる修養保養が出來たらば何なに嬉しいだらう」と。本年も其慾望に充されてゐましたが、元より一坪の土地もまだある理由ではありませんので、東洋英和女學校に御願して、第十四回の修養會が開かれたのです。同校の職員生徒方一同の和合一致や、勤勉勤勞のきこゑは以前より聞き知り居た處ながら、愈々開會となるや、先生、生徒の區別なく或は案内或は御茶汲み、或は炊事と襷がけに前掛で甲斐々々しく早朝より夜晩くまで立働きて來會者一同を歡待されたのに對しては誰も彼も深き感謝と敬意とを表したのであります。

働くとか、待遇すとかは特に婦人の職であるから、其を賞讃するは阿諛を呈するに等しと非難さるゝ方もありましよう。成程たゞ働く待遇すためにのみしてはマルタの失敗を繰返す事もありますが、東洋英和の方々は湧出で流れ溢るゝ許の喜びを以て私共大勢を七日間御世話された其精神は確に尊いものです。彼マルタは不満を抱き、小言を云ひつゝ客の待

遇をし、妹を恨みつゝ炊事をしたのに引き比べて、喜と眞心よりの奉仕とを實際に示されし姉妹方は、何の講演や教をまかれずとも、尙よき修養を積まれたのであります。たゞに開會中のみならで其前後の掃除などの行屆きたる、何處までも親切な心添へと働とが顯はれてゐました。あの暑苦しき數日間何貫位の麥茶を數百人が飲み干したでしよう。しかるに茶の當番の姉妹方は何時もニコ〳〵として快く世話され、或時は態々招き寄せて渇を癒して下さいました。特に炊事や食堂の世話にあたられし姉妹方の大多數は先生や卒業生であられし事を私共は忘れてはなりません。加茂舍監先生の御指揮の下に家事婦の講習會をして戴きたいとの申込さへあつたのは尤もの事であります。

又青山女學院へは開會の數日以前に寄宿舍を分宿所にと鐵面皮な願をも早速快諾された御親切は他に見る事は出來ません。如斯協同一致相扶くる精神は基督教主義以外の學校に於て見らるゝか疑問であります。

特に爰に特筆大書すべきは青山に分宿して、毎日二回づゝ集會に往復された姉妹方の美しき態度であります。朝は早く青山を出で、日中食事に歸り、夕方又麻布へ出掛け、九時頃に歸宿とあつては、なか〳〵の辛抱でありましたが、誰一人不服を唱へる者もなく、不便の處をさも滿足らしく毎日嬉々として通はれし此點は又敬意を表すべきと思います。實に修養會に來られし其精神が第一實現されてゐた次第で、もしこれが他の講習會であつたらばかくは行かざりしものをと幾度も感じ喜びました。

今年の修養會は皆が喜んで犧牲をし、喜んで奉仕したと云ふのが最も强い私の印象であります。是の喜んですると云ふが尊い理由であります。聖書に活ける獻物とあるは喜んで捧げるものと申します。不得止するとか、嫌々するとか申すのは死せる供物であります。此活るものを捧げるのは決して容易な事でありません。病人を看護する、折角計畫したこと

を犧牲にする、面倒な依賴を受ける場合に、私共は皆是をしないことはありません。する丈の決心と、努力はありましようが、喜んですると云ふ點には缺けて居ると思ひます。何卒泣きながら、これは運だからなどゝ云はずして、喜んでする迄に神の祝福が私共の毎日の仕事の上に降らん事を祈り求め度いものであります。

かく今年の修養會が諸姉妹の喜んでの働や奉仕を實現させましたので、神の御攝理の深妙なるを今更に悟りました、其は若し私共は毎年〳〵冀ふ樣な修養會の土地が早くより與へられ、何一ッ不足がない、結構な建物があつたならば、毎年神戸、仙臺、横濱、東京などの諸學校の美しい奉仕の精神にふれたり、又來會者の克己心や、不便をも厭はぬ如き献身的な精神を發揮し發見する好機會を逸したでしよう。其等の美點が缺乏して居る場合には、いかなる風景明媚な勝地に集會をなしたとて、靈性に裨益する處ありますまい、其で神が今日迄私の願にいやましたる美しき精神界を展開して私共に毎年〳〵提供されたのであるに、徒に海岸や、山間を夢みてゐたのに相濟まぬ事と氣づきました。

去る十四ヶ年はかくして私共を試練し、準備して下さいましたら、必らず近い將來に於て適當な場所を、私共の願ふに増してよき土地と建物とを與へ下さると信じます。要するに私共一同が、其を受るに足る者か、受くるに足らぬ者かで、恩寵の下る下らぬが定まります、是非諸姉が是がため祈り且つまた人々にも御紹介下されて内外の御援助を仰ぎ度いのであります。

本部事業のため左の通り御寄附ありたり。

一金拾圓也　白井長藏氏
一金五圓也　永瀨貞氏
一金壹百圓也　高野重三氏
一金貳拾圓也　坂本元子氏

講演

左の諸講演は修養會に出席された多くの若い姉妹方がその梗概を筆記して下さいました御芳志を御禮申上げます、又先生方の校正を經て居りませんので其邊御寛恕上願ます。（編輯人）

永久のものを得る修養

香蘭女學校學監　長谷川喜多

現今修養と云ふ言葉は一種の流行語になつて居ます、自分が事業に失敗した時に修養が足りないと云ひ、他人の行爲を見てあの人は修養がつんで居るとか云ひます。而し私共クリスト者はどの樣な方面の修養が必要でせうか、云ふまでも無く靈的修養で御座います。世の中はだん〳〵複雜になつて參りますから世人は靈の方面の事を稍々もすると等閑にする傾があります、コリント後書四章の十八節に「我儕が顧みる所は見ゆる所のものにあらず見えざる所のもの也蓋見ゆる所のものは暫時にして見えざる所の者はかぎりなければなり」と云ふ句があります、私共の靈は見えざるものです永久のものです。この靈を修養すると云ふのは私共の心を開いて神に近づくと云ふ事です。

世の中にはクリスチヤンであつて神からだん〳〵離れ樣として居る者があります、その樣な人はクリスチヤンになつた事を非常に飽き足らず思つて居ます、神の救ひをわすれて居ます、歡樂の世界をさまよつて居ます、この人達は神の國をうかがふ事を忘れて居るのです、お祈りする事を忘れて居るので

す、惡に滿ちた社會に暮して居る時はそれに慣れ遂にそれが罪である事に氣がつかなくなります。其の時山の上の樣な靜かな所で一人神に御話しする時にはじめて自分の身の汚れて居る事がよくわかります、私共はこの世に殘つて居てはなりません、大勢の人を率ゐて神の國に踏み出さなければなりません。

神に近よりたい、神を知りたいと云ふ心は決して一時的のものであつてはなりません、永久的のものでなければなりません。或人は御話を聞いて一時は非常に感じて、あゝ私はクリスチヤンになりませう、神に奉仕致しませう」と折角立派な決心を致しますがそれが暫くの間で直ぐ忘れて終ひます、こんなだから教會も振はなくなるのです、自分が善いと思つたならば一生續けなければなりません。

一つの學問一つの藝に上達するにも努力が必要です、まして眼に見えない靈を修養するにはより以上の努力が必要です。

私共は毎日生きて居るか否かを考へなければなりません、即ち神の内に生きて居るか否かを考へなければなりません。神の方に進んで居るか否かを考へなければなりません、若し進んで居るならば如何なる方面に進んで居ますか、常に反省する事が必要で御座います。自分は地上に於ける教會に屬して居るから天國に這入る事が出來ると思つたらあやまりです、自分で神をみとめ神に奉仕してはじめて神にみとめられるのです。

私共は常に神に近づく道を尋ねなければなりません、その道は山路の樣に險しいのです、あへぎながら登つて行かなければなりません。

この靈的生活の泉は祈です、いざと云ふ事件が起つた時ばかりでなく、日々祈りをしなければなりません。今の人は世の中が急がしくなればなる程永久な靈の爲に時間をかさない樣になりました、祈の時間はだん／＼減じて行きつゝあります、而し智的に發達しても決して淸いものになる事は出來ません、

私共は今より以上祈りの時間を持たなければなりません、一時的のものより永久のものが大切で御座います、この永久の靈を生かす爲に絶えざる修養が必要であります。

私共は兩親とよく話をする、遠くはなれて居る時は幾度も幾度も手紙を出して御話をします、それと同時に私共は神とよく御話をしたでせうか。

日々自問自答しながら神に近よつて行つてはじめて神の子としての自覺が出來るのです、そしてこの世の中も神の國となるのです、我共のクリスチヤンは絶えざる靈の修養をして神に近よつて行かねばなりません。

朝鮮基督教會再建の爲

修養會最終日に組合教會牧師山本忠實氏「朝鮮問題と基督教」と云ふ題のもとに社會の騷擾事件につきその梗概を語られ、其以前には早天祈禱會にて金善氏の司會のもとに同國の爲に祈り尚暇ある毎に私等信者の鮮人基督信徒に對する同情及び其責任等を相語り居たりしを以て修養會最後の夜獻金をなし之を被害教會再建の資に供する事を協議したり。即時獻金六拾八圓拾五錢及び豫約五圓五拾錢を得たるを以て之を福音新報社に托し、同目的の爲に使用せられん事を申し出でたり。因みに報告すべきは日本基督教會同盟主催となり金壹萬圓を基督信徒間にて募集し、それを以て今回騷擾事件のため災害を被りたる鮮人基督教會に送り同情を表す事に決議されたり。我女子青年會も進んで此擧を助け極力後援の實を擧げんとすれば諸氏中多少に拘らず之が獻金せらるゝ志の方へは本會は喜んで仲介者の任に當らんと思ふものなり。

主の祈の大要

植村正久

宗教を具體的に表はしたものは祈りである、つまり其實質が祈りである。祈りにも種々あるが、エスの祈りが宗教の完全に表はれたものである。エスは神の子にして神の子たる事を完全に體現したものである。エスの宗教は完全な絶體的な宗教である。基督教はエスの祈を學習し、その心を得るやうになるそれがキリスト教を信ずる事になるのである。

人間は三方面に活動する、即ち一、向上―祈、二前後左右に延長―ほどこし、三自己の內心に立ち歸ると。神は必ず我祈をきゝ給ふ、即祈の効力を信ずる事が必要である、又神の心と吾々の心とが合體せねばならぬ。祈りには人情、刺戟によりて自然に迸る祈りがある、然し基督教のは異つてゐる。エスによりて罪が許され神の父たる事が分り、その鍛錬された清められた神の子たる心持ちから發する祈りで、此は生れつきのものでない、救はれた事から祈れる事で自然ではない。その神の子として發する祈りの全體を簡單に縮めたものが主の祈りである。

その順序內容「天にまします父よ」自分を見ると小さい俗ぽつい事が浮ぶ、その俗から注意を天に向けるのである。その天に何があるか、天は何であるか、人格的のものがある、即ち恩惠と義とに滿ちた清い尊い氣高い懷かしい父がまします、その父に「天にまします」と云ふと何とも云ふ事の出來ぬ氣高い清い心持ちになる、祈には自己を先にしてはならぬ、神を第一にせねばならぬ、人中心の宗教（存外多い）となさず神中心の宗教とする。「名を崇めさせ給へ」神の靈が滿ちるやうにならねばならぬ、「御

國を來らせ給へ」世には神の經營せられる仕事がある、その神の計畫に從ひ世界は進みつゝある、たとへば職工が日曜日を休日になす如きことが日本の一方面に出て來た如きが其一例と云ふがよい。世界には神の救の力が漲つて居る、その神の計畫に我々は喜んで献身義勇公に奉じ攻擊的に奮鬪して行くべきである。勿論平靜の必要はあるが其丈では不可、ギヨン夫人等でもあの祈り等隨分學ぶべき所があるが何時も平靜である。キリスト信者は徵兵ではならぬ、義勇兵でなければならぬ。この心持ちが「御心をなさせ給へ」である。次に神は吾々に必ず必要なものを與へ給ふ決して只使ひはなさらぬ、戰に遣はしておいて何の報も與へ給はぬやうな事はない、お祿に預る信仰を有つてよい、又心に何かある時は安じて神に祈る、又神の與へ給ふものに滿足する、決して贅澤を云はぬ自己のみならず他にもあらん事を祈るべきである、安心、滿足、平和、畏縮してけち〳〵して居らぬ事である。次に罪を感じ益々それを感ずるやうになればなるほどその赦しを求めるやうになる。又世の中は「藪から棒」と次から次へと種々の出來事、危險が降つて來ると云ふが、基督教にはそれはない、神は常に萬事を見て居られる、即ち神の配下に行はれる出來事である。が好んで危險誘惑に近づく必要はない、君子危きに近づかずで、天祐を得る事である。此は極て大要であるが私共の色々の祈をこれに當てはめて行けば安全である。

祈る時は態度を整へて嚴肅に祈らねばならぬ、思想を集注し精神を平靜にして。祈りには自分獨りでは出來ない、如何にしても仲間が必要、その仲間は即ちイエス、キリストである。

消息（一）

○寺田初代氏、七月十六日ミスガンターと共に渡米されパリー講和會議より歸朝さる御良人を紐育に迎へられ今年中に歸朝あるべし。

○栃村惠子氏、神學研究のため米國ハートフオード神學校に二年間研究の爲渡米さる。

讀書

女子學院學監　三谷民子

選擇の法。書物は裝飾ではない、勿論裝飾にする人もあるが、そう云ふ裝飾とする本には選擇の必要はないかも知れぬが、世界の書物の名だけ讀むに何十年も掛ると云ふほどの多くの書物を全部目を通すと云ふわけに行かぬ、中には三文武士の書いた極めて賤しい下らないものもあるから、如何しても信頼したい、又信頼すべきものを讀みたいものである、教訓的のものでもよい、教育的でも娛樂的でも智識的のものでも。私の經驗では、學校で先生に歷史を習つた時に敎へられた書物の名を一寸い〳〵雜記帳に取つておいた、十四歲の時からそれを讀むのに三十年掛つてつい最近その最後の本を讀み終つたのである。

如何にして讀書力をつけるか。先づ題目を定めておく事、例へば今年は歷史の書物、來年は繪の書物又その翌年は文學に關する書物と云つたやうに、かくして十年十五年のうちには十分な讀書力がつくと思ひます。私は此夏休みにバイロンの詩集と、源氏物語りを讀むつもりで後者は最後の卷を讀むのである。

新聞雜誌を讀むにも我々の多くは先づ小說の續き物を見るが、あれには勿論よいものもあらうが、中には無責任なのもある、かゝるものを一生懸命、時には淚を流してさへ讀んでゐるが、吾々は責任を以て眞面目に書かれたものを讀みたいものである、例へばカーライルの如き、彼の父は左官で貧窮の中から彼をエジンバラ大學に入學させたが、途中汽車に乘る金もなく荷物を脊負つて步いた、時々父が尋ね

て行くと他の學生達嘲弄したものだか、今はエジンバラにカーライルの立派な銅像が立つてゐる。彼は書を著さんとする時「父が建てた家と同じやうに永續するやうな物を書きたい」と云ふた。父に献げた最も勝れた讃辭ではあるまいか。斯くの如き眞面目を以つて書れた彼の書は實に偉大なものである。

讀む場處、ある人は角な机に向つて讀書出來ぬ、丸い机でないと不可と云ふ癖の人があるが、確かに定つた讀書の場所が必要である、取りみだした場所で讀書する氣になれぬ、何をしてゐても清潔にされた机とその場所があると一寸本を讀む氣になれるものである。

書物の取扱方、これは云ふ迄もなく丁寧に扱ふ事、洋書であれば眞中から開いて上部から繰れば決して損じるものでない、他人の書物は殊に大切に取扱ふべきである。

ガラテヤ書に現はれたるパウロ

東京神學校教授　石原謙

ガラテヤ書はパウロの他の書翰に比して著しい特色がある。感謝の言葉喜悦の叫びがない、挨拶の言葉にも親愛の情が見えてゐない、凡てが强く鋭く爭ふやうな責めんとするやうな呪はんとする一種のものがある。「愚なる哉、ガラテヤ人よ、十字架につけられ給ひしまゝなるイエス、キリスト、汝らの眼前に顯されたるに、誰が汝らを誑かししぞ」（ガラテヤ書三、一）「なんぢら前には善く走りたるに誰が汝らの眞理に從ふを阻みしか」（ガラテヤ書、五ノ七）。斯くガラテヤ人の墮落に對して憐むと云ふよりは、

むしろ怒り、責め且つ悶え、不平不滿の聲をあびせかけてゐる。然らば何故ガラテヤ人はかく非難されるか、その信仰の蹉跌動搖は如何にして起つたかは省略して、その怒り、責めつゝあるパウロ自らは如何なる人物か。

　ガラテヤ書はパウロの缺點を遺憾なく暴露してゐると共に、彼の偉大な精神をも披瀝してゐる。パウロは眞事に全力を注ぐ人である、成功不成功は毫も彼の念頭にはない。「我いま人に喜ばれんとするか、或は神に喜ばれんとするか、抑もまた人を喜ばせんことを求むるか。もし我なほ人を喜ばせをらばキリストの僕にあらじ」（ガラテヤ書一ノ十）即ち彼には唯一つの目的即ち基督の僕たる事があるのみである。彼は神と人との關係に就いても「人の氣に入るか將たまた神の僕となるか」の二つしか見てゐない、そのいづれかに決定してしまいたいとしてゐる。ガラテヤ書第五章の初めに割禮（パウロは律法の意味で云ふ）を受ける事を論じて居る、――若し割禮即ち律法に因りて救はれるならば基督の十字架は無意味である、基督の十字架の死は犬死である、基督の信仰に因りて救はれるならば律法は捨つべきものであると、基督と律法とを判然と區別して居る吾々は右か左かどちらにか從ねばならぬと妥協を排した絶體的の主張をしてゐる、斯くの如き信仰、態度を有つて居ればこそ、斯くも偉大な事業をなし遂げられたので有る。

　基督に因れる自由の福音を說かずには居られなかつた、それが信仰の眞髓、生命であつた「兄弟よ汝らの召されたるは自由を與へられん爲なり」（五ノ十三）かくパウロは自由に於て福音の眞髓を得た、即ち律法からの自由。律法の命ずる事は絶體的のものでない、律法は服從を要求する、故に束縛である。自由は律法から逃れる事である、然し絶體に否定するものでない事はよく理解してゐた――律法は如何に尊いもので價値あるものであるかを知つて居た。けれどもそれが目的ではない、手段である。律法は

我々が基督に行く迄の守役として守つてゐる、守役とは眞の教師ではない、手解である、眞の教師は基督である。「兄弟よわれ人の事を藉りて言はん、人の契約すら既に定むれば之を廢しまた加ふる者なし」(ガラテヤ書三ノ十五)の如く律法は一時契約と代つたものである、契約が來れば小さい低い律法は捨つべきものである。その捨つべき否捨たるべきものに因らんとするは「凡そ肉において美しき外觀をなさんと欲する者は、汝らに割禮を强ふ」(ガラテヤ書六ノ十二)肉の誇と云ふて居る、形骸を美はしくせんとする誇である、理想に反抗し、神に反抗し、神に近く事の出來ぬ事である。「凡て律法の行爲による者は咀の下にあり」(三ノ十)「我は神の恩惠を空しくせず、もし義とせらるること律法に由らばキリストの死に給へるは徒然なり」(二ノ二十一)又コリント後書三章には「律法は殺す」と云ふて居る。

パウロは律法から超越せんとしてゐる、「我には我らの主イエス、キリストの十字架のほかに誇る所あらざれ。之によりて世は我に對して十字架につけられたり、我が世に對するも亦然り。それ割禮を受くるも受けぬも、共に數ふるに足らずたゞ貴きは新に造らるゝ事なり。此の法に循ひて歩む凡ての者の上に神のイスラエルの上に平安と憐憫とあれ。」(ガラテヤ書六ノ十四―十六)。即ち基督に因りて生れること、基督に因つて新になる事。パウロは基督と共に十字架につけられ、基督と共に生きてゐる此處に彼の偉大さがある。

信仰は神からしてその内容が與へられ、神が我々に靈を滿たし給ふのである、我々は律法に立つか立たぬかは問題でない、眞の信者は律法なしに美あり花あり實あり生命ある生活を營むのである。即ち神の靈に因つて歩む生活は律法に叶ふ生活、最も高い道德に叶ふ生活である

信仰に因れる自由は律法を超越するが、愛はその自由の歸著點である、凡ての德の決着點は愛である自由を得たればこそ人を愛する事が出來る。自由の

生活は即ち愛の生活である。之を書きてパウロは道德的の勸めを爲して居る。コリント後書十三章は有名な愛の詩である。此意味に於てパウロは基督の使徒である。基督の敎は愛である。パウロの愛の歌ほど美しいものはない、愛は凡てのものを動かし、生かす凡てのものゝ源である、生命である。「基督の愛我に迫れり」と云ふてゐるが、パウロと神との關係基督との結びは愛によつてゞある。

かく考へれば宗敎は愛に外ならぬ、神に知られるのは神を愛する事に外ならぬ。此處に至つてパウロは愛の外には何も知らなかつた、「人生の源は愛なり」と解釋してるのはパウロ自身が愛の人であつたからである。がらてや人とパウロとの關係は如何にと見るに、怒りつゝ愛の焔は燃えてゐる、責めつゝ愛の泉は湧き出てゐる、ガラテヤ書四章を見ても其昔如何に彼等がパウロを愛してゐたか十五節「もし爲し得べくば己が目を抉りて我に與へんとまで思ひしを」を想ひ起し感慨してゐる等、彼の愛の深さを表はして居る。パウロが如何に愛の人であつたか、愛に燃えてゐたかは驚くばかりである。人々が離れて行けば行くほど彼は彼等を慕ひ求めた、愛は實に苦しみである、狂ひである。基督の愛と較ぶれば基督の愛は狂はしいものではない、何處迄も平靜な深遠なものであつたに相違ない。然し彼の十字架は苦しみである、此愛は生みの苦しみ、捧げられた神聖な愛である。パウロは凡ての愛は德の鍵であると云ふたが、凡ての愛が悉くかくも崇高なものでない、低い汚ない小さいものもある、即ち第四章に表はれたガラテヤ人の愛は素朴な初な狂はしい靑年の如な愛である、美しいには相違ないが外界の刺戟によつて變化する脆い愛である。又同章十六、十七、十八等に現はれてゐる敵の熱心、主我的の熱心、熱心もやはり一種の愛である、自己の誇、肉の誇、然しパウロの愛は自己のなき愛である、吾々は自己を反省する必要がある、かく三種の愛がある。

一初な純ではあるが烈しい靑年の如き愛。

二　主我的、悪魔的の愛。
三　パウロの如き神聖の愛。
おそらく此三つは愛の全體とも云へるであろう、パウロの如き愛迄に清められ、高められて行かねばならぬ、基督の敎、基督の事業の行くべき處は愛である、此の基督の愛に生きたパウロは眞に愛の人であらねばならぬ。

貞操

井深花

お互にクリスチャンは神に似た清い人になりたいと云ふ希望を持つて居ます。清い生涯を送るには第一に清い人になり、次に清い行爲をする人にならなければなりません。或人は私は人々にはどの様に見えましても神様の前に立つて何もやましい行をしないからそんなことを心配する必要はありませんと他人から悪評をたてられても平氣で居る人が御座います。

而し他人にその樣に言はれる以上自分のどこかに不注意な點があるのです。

自分を清い者として行くのには貞操と云ふ事も最も大切なものゝ一です。自分は清い者であると思つて居ても、男女關係に就いて他人に疑はれたならばその人の半生涯は失つたと云つてもよろしい、男女關係に就いて疑はれたならばそれは一生明をたてる事は出來ませんその人の一生の邪魔になるのです。

戸じまりした家に決して盗人が這入るものではありません。これと同じに戸じまりした精神に決して

誘惑の這入り込むものではありません。近來の青年はよく「愛は神聖なり」と云つて少女達を誘惑して行きます。而し其の人達の稱へる愛は決して神聖ではありません、彼等の愛は常に移り變つて居るではありませんか、移り變る樣な愛は決して神聖ではありません。

或る本の紙表に小さい男の子が女の子に向つて「アイラヴユー」と云ふ語をかけて居ますと女の子はそれに對してあかんべえをして居る畫が御座いました。

ラヴと云ふ言葉はもとは淸い意味なのですけれどこの女の子があかんべえをして何るのが非常に面白いと思ひます。青年男子から親切な言葉を掛けられた時この女の子の樣にその誘惑をはねかへす用意が常から必要です。

西洋では男女の交際は許されて居ますが男女の間にちやんと禮儀が保たれて居るのです。男の人は女の人を訪問する事は出來ますが、女の人は男の人を訪問する事は出來ません、訪問してもそんなに長く話をして居るのではありません、ちやんと定まつた室で姿勢から正して御話をするのです、他人ばかりではありません、父に對しても兄に對しても相當な禮儀があるのです、日本ではよく男女七歲にして席を同じうせずと云ふ說が御座います、七歲になつたら席を同じくしてはならないと云ふのでは御座いません、その精神を持つて常に心を許してはならないと云ふのです、常に侵す事の出來ない威嚴を持つて居なければなりません。近來の樣に男子に貞操の敎育の缺げた時、「愛は神聖なり」と云つて自分の動物性を滿足させ樣として居る時にはよろしく女子は自分を保護しなくてはなりません。

又青年男女は自由に音信すべきものではありません、自由に手紙をやりとりするのは例へ中にやましい事が書いて御座いませんでも他人に非難せられるもとなのです、どうしても出さなければならない必要があつたなら葉書を出すべきであります、例へ老

人になりましても奥樣のある人には奥樣と連名で出し或は奥樣から御取次を願ふのが普通になつて居ます。

又物品を贈ると云ふ事にも氣を付けねばなりません、或娘が牧師を慰め樣と自分の庭に美しく咲いて居る花を度々贈りました、その娘は牧師を慰め樣とほんとに純な心で贈りましたけれど、その牧師は非常に迷惑したと云ふ御話が御座います。こう云ふ事もほんとに好く氣を付けないと他人の迷惑になり又人の噂の種になるものです、例へ自力の心にやましい所が御座いませんでも他人と兎や角と噂されるのはクリスチャンの罪で御座います。昔は男女七歳にして席を同じうせずと申しまして男女交際の嚴重で御座いましたが今はそれ以上に嚴重でなければなりません、七歳になつたから絶對に同席しないと云ふのではありません、今の女子は男子を見る活眼を開いて誘惑に打ち勝つだけの確固たる精神を保ち立派に貞操を保つて行かなければなりません。

外國女子青年會

青年會幹事　ペーチ

二三日前ニミススカツトがお歸りになつたので其の代りに私が今日の萬國女子青年會の働きについてお話し致します、少し前に流行したインフルエンザは何處から出たかと云へば、或人はフランス、或人はスペインと云ひますが事實何處からであるかわかりません。

又、今人々は物價の高いのに困つてゐますが、それは我々が如何に萬國の人々と深い關係があるかが

わかります、今世界の至る所でデモクラシーの聲を聞くが、それは何處へ行つても同じであつて、これも萬國と深い關係を持つてをります。幸に我等の女子青年會は、から云ふ考を土臺としてその上に立つて居ります、今の世界のキリスト敎女子青年會總幹事は、十六年前まで日本の宣敎師であつた方で、日本とは深い關係があり、又私の國の女子青年會に日本の幹事が一人をられ、其他方々の國の方が働いてゐらつしやるが如き有樣となつたのであります。

アメリカが宣戰してから、女子青年會の働は非常に廣くなりました。私共は戰爭と云へば大低男子の働きを考へますが今度の戰爭に於て女子の働ともなりました。戰爭に參加した軍人の親類の者達が面會する場所がなかつた時に、女子青年會の本部へ電報で何とか方法を講じて來れと云ふ事を云つて來ましたので、直に家を備へ禮節ある婦人を置いて、そこで彼等の面會をさせたのであります。又男子がみな戰場へ行つたので、女子がその後を引受けて樣々の働に從事する樣になりました。皮膚が眞黑になり髮の毛が白くなるやうな藥を取扱ふ工場によろこんで働きに行きます、これ等の仕事は一寸過があれば非常な大事を引起しますので、そこに働く人々は神經衰弱を起し易いのでこれを避ける爲に娛樂の備をなし、食物を給し、音樂を聞かせ、又聖書の組を設け等して休の時間を滿たす働を女子青年會が致しました。フランスへは男子ばかりだと思ふ方もありませうが其處には多くの女子が行つてをります、それ等の人々は、フランス語がよくわからなかつたり、習慣に通じない爲に色々な事が起るので、女子青年會は其等の人々の爲にも働いてゐます。私がアメリカに歸つてをります時にフランスからアメリカへ電報を以て事務員六十名を賴んで來た事がありました。軍隊の食物問題は非常にやかましう御座います、英國ではパンを燒く人は千人二千人が一處に集つて或者は朝から晩まで他者は晩から朝へ通して每

日何の變つた事もなく働いて居ります。それで女子青年會はその少しの休の時間を何か面白く過す樣な働を致しました。

フランスの女子は前爭前には餘り外の働に出なかつたので戰爭が始まつて男子の仕事を引受けた時になれない爲に困難を致しましたので、女子青年會は其等の人々の爲に道を講じました。又ロシアの女の人の爲に何か盡したいと思ひ、二三年前にミスへ〇〇〇〇〇〇ンサーが五人の幹事をつれて行かれ青年會を建てゝ働かれましたのが今も續いて存してをります。

戰爭後に特別に考へてゐる事は社會改良であります。今度は繼續的事業をなさなければなりません。

今はアメリカから百人の幹事がフランスへ行つて彼地の若き女子の爲に働いて居ります、又私が昨年ニユーヨークにゐた時に社會的知識を得る爲に來てゐた百人のポーランドの婦人に會ひました。フランスからも同樣な目的で來てゐました。アメリカの青年會に於てはかうして集つて來る諸國の人々に、アメリカ語や風俗習慣等を敎へて居ります。布哇に於ても同樣なる働をなし、日本、朝鮮、フイリツピン等の幹事と共に働いてをります。

戰爭後の今日我等女子青年會員は大きな計畫をしてをります。大なる計畫をしなけば大なる結果を得る事は出來ません。而してこの樣な事業をなすには共同をもつてしなければ決して出來得るものではありません、我々は唯自國の事のみを考へず萬國の樣子を考へて働かなければなりません。皆樣もよくこの事を考へて共に祈つていたゞきたいと思ひます。

嬉しき手紙

一昨日アメリカのミスエレスと云ふ方からお手紙を戴きました。其の中に神戸女學院を出て彼地へお出でになつた長井さんを桑港に於ける女子青年會の幹事としてインターナショナルの方に働いてい

たゞく様にお願ひしたと云ふ事が書てありました。長井さんは其處で日本から行く同胞の人々を導き世話をなさるのであります。神戸女學院を卒業後ミルス大學を卒業された實生さんも幹事となつて桑港で働いてをられます。

この桑港の女子青年會が今度アメリカの女子青年會の一部に入ります、日本の女子青年會も決して獨立してゐるのではなく米國の大きな中央部に屬する一部となるのであります。長谷川さんと云ふ方もロスアンジエルスの師範學校を卒業後女子青年會の爲に働いてをられる。この樣に日本の婦人が外國人と肩を並べて働くやうになつた事をよろこんでくれと云ふ事でありました。そしてこれ等の人々が毎年修養會を開き移民問題其他色々の社會問題について一週間の間講演を聞き研究するさうであります。皆樣も共に日本人も段々世に並ぶ樣になつた事をよろこんでいたゞきたい。

女工傳道

富士紡績押上工揚長　渡邊轍

現今勞働問題はやかましくなつてゐるが、直接勞働者、殊に婦人について考へを見たい。

一口に勞働者と云ふても女工のみが勞働者でない山手邊の奥樣も勞働者である然るに工女のみが勞働者と思ふのは日本人の頭の低い事を語つてゐるのである、今少し婦人勞働者に尊敬を拂つて頂きたい。

婦人勞働者に二種ある、大工場に働く者と、家内工業に從事するものと、歯磨、白粉、ボール紙、エ

ーブロン、ドロンオーク、袋張等は家内工業に屬する。後者は比較的萬足の位置にある。何故ならば父母に近く、泊り込みでも主人夫妻の直接の愛を受けるから。最も憂ふべきは前者に働く者である。悲しむべき、同情すべき、改善すべき大工場に働く婦人の改善を計らん事である。父母より離れて慰安なき悲しい淋しい生活に同情すべき事である。彼等は主に紡績、生糸、煙草の工場に働いてゐる。紡績會社數四十三錘數三百十七萬六千二百四十一、工男二九、六六一平均日給一圓四錢强、工女九八、八二三平均日給八十錢强、織機三九、七八八。工男六、六一一、平均日給一圓七錢。工女三四、八五二、平均日給八十五錢。繰糸出來高一六三、一五二梱。布六二九一七、九五一碼。一、八八七五、三八五、三十錢。(五日調)全國十三萬の勞働者のうち十二萬は父母から離れて居る。年齡は十二年から三十年迄、父母から離れて居る丈でも淋しい、それで男子と共に働くから荒んで來るのは當然である。物質から云へば四十圓以上取る者は幾らもある、そのうち食費は僅十三四圓位であるから殘餘の金を存外空費してしまふのである。

扨此荒んで來る女工を如何に救ふべきか、教育によるか、宗教によるか。彼等の精神を最善に導き、慰安を與へるものは宗教に因る外ない。之迄芝居を見せたが思はしい結果もなかつた、公園に連れて行つても、忠臣義士も、絶えず二宮主義もやつて見たが之も成功せず、それならと天理教も研究した、之には六百二三十人の信者も集つたが如何も勢がない、天理教は危を拂ふ故工女は行はよいが慰安がないので勢がない。それから基督教を研究し始めたが仲々得る事が多かつた、その當時一人のヒステリーの工女が何か口論でもしたのか自ら床下に入つて自殺した事が分り大に感じた、多くの子女を預つておくが、監督が少いので一々その境遇を聞き慰めてやる事が出來ぬ、何とかせねば親に濟まぬ。これは如何しても宗教によらねばならぬと。折りしもメ

ソデスト派の一婦人が私に尋ねた「貴君は一體如何なる信仰をお有ちですか」と實に赤面した、必要は感じてゐるが自分まだ信仰を有つてゐるのではなかつた、が此問が基となりて信仰の道が開けた。後信者の行動を見てゐると表裏がない、然も力があり勢ひがあるのを見た「汝ら主にありて其大能の勢威に賴りて强かれ」(エペソ六ノ十十一)。小名木川工場には二百名の信者がある、その一人なる牧つねと云ふ工女は實に感心なもので或る同室の者の金五十圓紛失したが事の大事にならぬやうにと監督に願ひ出たのが根となり、牧氏は濡衣を被せられることになつたが天を恨みず人を怒らず、常に祈つて居た。三月目に眞の犯人分り彼女は晴天白日の身となつたが、害人被害人共に悔心して信者となつたとは美しい實話でないか。工女にはよく自殺者が出るがその原因は今の如く無實の罪、男女間の風說、迫害の三つである、最も多いのは無實の罪のためである。此度小名木川に敎會を建てるについて無名氏から百圓の寄附があつたが、それは小山第一工場の工女からである、彼女の母は淫蕩に身を持ち崩すと云ふ女であるがため隨分金錢上にも不自由をさせられたが尙その百圓の金を貯へおき寄附したとは吾々を大に刺戟する事である。

勞働社會では目下男女間の問題と云ふよりも新らしい女が出來て居るとは面白い事である、男工でも同盟罷工さへすればよいと云ふやうに成つてゐて、無謀なる强迫、無謀なる要求のみを事としてゐる、自己を毫も反省してゐない。學者の寢言では駄目である、地位の反省、自己の反省は基督敎によらねば出來るものでない、「僕たる者よ、キリストに從ふごとく畏れをのゝき、眞心をもて肉につける主人に從へ」(エペソ六ノ五)は勞働問題を解決して居る。因に全國の工女は五十萬人あり。

(二十一頁に十三萬とあるは紡績に從事する者丈の數なり。賃金も厘以下は省略せしもの。係)

小名木川日本基督教會建設式

七月二十六日午後二時より笹倉彌吉氏司會の下に同教會建設式を執行されたり。會するもの約百五十名、現在會員數百六十三名、求道者約五十名。なほ渡邊轍氏の語られたる同教會建設の由來の一節に、昨年六月頃までは江東一帶の工業地に一つの教會もなく十八萬の人口（內、六萬は歸工）は空しく靈に飢えつゝあるを見て、まづ渡邊氏が小名木川富士紡績工場長として赴任さるゝと共に植村正久氏と協議して傳道を開始し、江村寛一氏主任者となり他に數名の應援者を得て着々傳道の步を進めし處、僅かに一ケ年にして遂に獨立自治の教會を建設するに至れり、とあり。是に刺激せられたる各派教會は今や江東一帶に大に活動せんと既に數個の傳道所を設立せりと云ふ。なほ二十六、七日兩夜教 會建設祝賀傳道を催したりと云ふ。

同盟罷工續發

（福音新報轉載）

▲同盟罷工續發　同盟罷工が盛に起る、孰れも賃銀の增加と時間の短縮とを要求せんとするにある。從來利益の大部分は株主と云ひ、役員と云ひ、主人と云ふ資本主に吸收せられて、僅の賃銀で最も重き勤勞の負擔を爲し來つた日本の勞働者が、世界の勞働者と同じ步調を取らんとするに至つたのは防ぐ可からざる時代の趨勢と謂はねばならぬ。國際勞働者會の決議が日本に有效であらうがあるまいが、又日本の勞働者の代表者が其の會議に出席しやうが、すまいが、或は日本の官憲連が壓迫を加へて勞働者の代表者が國際會議に出席する事を妨げやうが、妨げまいが、そんな事には頓着なしに日本の勞働界も世界と相響應しつゝある。思想も生活も、即ち生存に關する考へ方でも或は政治や社會生活の凡ゆる問題が世界的になつた、所謂國際主義になり行く世の中、日本の參謀本部や、軍人連や、官僚の人々や、

保守家連が、大和島根の殼の中に閉ぢ籠つて、日本は日本許りで押し通せるものと考へ、世界の思想や主義や方式に理解なくして行かうとする愚さを見つゝある吾等には『日本許り』主義の資本家も亦覺めねばならぬ事を切に感ぜざるを得ぬ。日本の雇主と被雇人、資本家と勞働者とは主從の關係であるから、歐米の勞働界とは異ふなど云ふ沒分曉漢は今日では最早あるまいとも思はれるが、されど今日の所謂『溫情主義など』言へるは主從關係の別名に過ぎぬのである。

▲溫情主義など云ふ誤魔化し主議では最早滿足しない、少くも今度の同盟罷工でも昔の遣り方とは異つて、餘程組織あり連絡あり統一あり秩序あり定まつた意志のある運動となり、政府でも勞働組合の組織を認め、治安警察法なども改正せねばならぬ時代となつて來た事を證明して居る。彼等は最早、單に日々の賃銀で、これで以て勤勞の報酬を打ち切られる事で滿足せず、利益の配當を要求する心が動いて來た、或る社の職工は其の社主の儲け得た金高の見積り額一千萬圓と算定して其の中三百萬圓を職工に分配せよと要求したと云ふ噂もきく、勞働界も矢張インタアナショナリズムの外には出でぬ、『戰後のデモクラシイ』と云ふ新刊書の著者がホブソンと云ふ人が平和の途もデモクラシイの途もインタアナショナリズムの途も共に一つで、其の勝利の中に政治的産業的、精神的自由も亦離る可からざるものであると言つて居るのがよく理解せられ得る。近著の英國の一雑誌に『今日の勞働者の要求は物質的變化に對するよりも精神的變化に對する要求である、即ち工業生産の分配に對する要求よりは寧ろ其の動機に對する變化を要求して居る』と云ひ、今日の新しい主義となつた利益分配の現生主義でも此の點に於ては無意味な事だと云ひ、其の失敗の實例をも擧げて人は只賃銀許りで働く者ではないと言つて居る、眞に個人の自由、責任、權利を理解してそれに生きんとする新しい時代の勞働者は只賃銀許りで働く事を肯ぜないのは勿論の事であらう、此の思想と感情は段々と日本の勞働者の心にも植え付けられつゝあることを知らねばなるまい。(福音新報)

理想

ウヰルミナ女學校教師　西野貞子

先づ神の國と神の義とを求めよ（太六、三三）「言は肉體となりて我らの中に宿りたまへり、我らその榮光を見たり、實に父の獨子の榮光にして恩惠と眞理とにて滿てり云々」（約翰傳一ノ十六—十八）

理想は人生最大の大切なもので有ります、何故か人に生命を與へる、靈の力を與へる、之が有ると無いとによつて人格の如何、人間の運命、人間の眞價値が分る。向上心は神を求める聲である、最大の理想は神を求める聲である。

我々には二つの性向がある、一は神に近づく事、他は神より離れる事である。現今日本の世界を見渡すと知識階級、有産階級の人々より畜性より低い人々が續々出て居る。彼等は社會人類に毒を流して居る。神を求める聲を上げぬ人は斯る人である、然らば基督は如何なる人であつたかと云ふに、彼は美化し聖化された方である。私共の生涯は必ず明らかな目的を有つてゐないと駄目である、それなしに世の中に偉大な清い生涯を送つた人はない。

自殺者の數の多いのは彼等が人の生命の如何なるものかを知らぬからである。人生として何の希望も有つてゐないからである。基督教の人生觀は三つある、一人生は神の支配の下にある、二人生は天職を盡す場所、三人生は人格を鍛錬する場所＝理想化して居る事、永遠の國を造る場所である。人生の目的は何か、聖書が示してゐる。人生を最もよく解した人が一番よく教育された人である、人生問題の解決を與へるものは聖書中にある、最大、最高の人格者はエスキリストである、此が分れば此を行ふ力と光

明とは與へられるのである。何事でもその道に達せんとせばその道の代表者に行かねばならぬと同じやうに靈を開發し品性を洗錬するには基督に行き基督を信仰するより外に道はない。「我は道なり眞なり生命なり」と仰せになつた高き人格に接する外に道はない、基督を主と仰ぐ事は淋漓たる精力を頂く事である。何故ならば我等が父よと呼ぶ神は愛であると共に又神は物質及靈の力である、如何に小さい弱い者でも力と勇氣が與へられる。世界に要求されてゐる凡ての事をなさんには意志が入る、その意志は何處から來るか、眞の事業家、至誠家は神を信じ基督を信ずる處より來る、あく迄も善の源なる基督を仰ぐ時は善化し美化し聖化されざるを得ない、彼を仰ぐ時は悲しみも失望もなく善美の妙境に進む事が出來る。その人の獻身、愛が世の鹽となり世界が清められ向上されて行くのである。ある傳道書の中に神の榮を認める事が人生であると、然らば聖化も善化も偉大化も榮光の器となる、白光體となる、我々の顏が光となる。如何なる顏が美しいかと云ふに精神美の表はれた顏ほど美しい顏はない、日本の男子は理想が低い故に白粉を塗りつけた顏の形の外に得見ない、如何しても此理想を高めねばならぬ。

かつて盲人で聾人の老人に向ひ世間並みの慰言を提した處莞爾として「我に天の喜悅と慰藉あり」と云はれた、却つて當方が慰められたのである、その時三人の盲人を想ひ出した即ちミルトンは其一人である「今日も尙憩はず働く」と仰さられた神を理想とする彼ミルトンは失明して尙徒食せず、活ける基督を圍んで居る萬軍の天使を見た、その美しい聖い光景を詩に詠んだ。次にヘレンケラー「世人が私を見たら私は自殺ずべき人なるが、人生の義務を與へられた、人を幸福にし向上せしめるのは人生の義務である」と不平不滿から救はれた。「人生は眞に樂しみなり常に天の慰藉あり、天に父あり」と云つたフランスのビスターは嘗ては失望した、「あゝ人生窮せり」と然し慈愛の神は徒らに人を苦しめないと悟つ

た彼有名な彫刻家は終に何と云ふたか「神は二個の眼を取つて十の眼を與へ給へり」と。此四人に此理想がなかつたら最も不幸な人として終つたに相偉ない、諸姉は白光體とならんか將たまた低い畜性の生涯を送らんとするか。

歐米婦人の活動をみて日本婦人を思ふ

青年會常務理事　益富政助

誰れでも歐米に行つて感じる事は女子の社會の事であり、殊に教育の事であらう。ロンドン大使館附の澤田氏が「西洋に於ける夫の友は妻の友である」と言つた事がある。日本に於ては如何であらうか。

私が先日の歐米訪問の時にカルホルニヤ州の州立大學を尋ねた時にその生徒の七分が女子であつた事をみた。又ある新しい師範學校に於ても四百人の生徒の中で三百八十八人まで女子である事もみた。日本では一人の女醫學士が出たと云つて大騷ぎしてゐるではないか。又小學校をみてもその校長が一人男子位で凡て女子の手で出來てゐる、又女學校に於ても同樣で純粹な女子教育が施されてゐる。日本の女子教育は純な物ではない。多く男子によつてなされつゝある。故に良妻賢母と言ふ、貞操と言ふ凡て男子本位に出來てゐる。たしかに女子は男子の援手である。然し男子も又女子の助手であらねばならぬ。

私は戰爭最中に行つたのである、從つてみた働も戰爭の氣分が充ちてゐるだらう。日本に於ても日露の戰に於て愛國婦人會等が働いた。然しそれ等の間には大なる異がある。アメリカ合衆國は戰に加は

つた時に十萬の兵を有してゐたが、立ち所に五百萬になつた。それで諸方面に働手が不足して來たので十四歳以上の少年も百萬人の勞働者になつた。富者の集りと知られたスミスカレージの婦人は此の時直ちに作業服を着て畑に立ちはたらひた。勿論基督教女子青年會の働は大なる者である。農場に、工場に陣營に男子に劣らぬ働をなした。殊に彈丸のとび散る佛國戰線に立つた者も少くない。かくして合衆國の女子は女子に能ふる仕事凡に活動してゐる。

英國に於て基督教女子青年會の働は合衆國の程ではない。然し英國の女子は基督教青年會の下に婦人後援會を組織して活動した。ロンドンに百ケ所を設けて三ケ月の休みを得て歸つて來る英國兵の爲に活動した看板にはYMCAとあるけれど中に働いてる人は凡て婦人であつた。娯樂を與へ敎育もし、又諸方への紹介、案内等。又自分の時を全部捧げる事の出來ぬ人は時に制限をして働いてゐた。兎にも角にも向ふの人の頭には仕事の貴賤の考がない。唯人に仕へる事が働きであると考へてゐるのである。

佛蘭西に於ては赤十字の働がみるべき物の一であつた。之は三十人、五十人と團體はあるけれど青年會等に比べて割合に小さい團體である。何の目あてもなく北佛蘭西から唯逃げて來る人々は非常な物であつた。當時政府は戰にのみ忙しく之等に目もくれなかつた。その時此の哀れな人々を導うとしたのは青十字である。高位にある婦人で自らの所有凡を投げ出して働いた人も少くはなかつた。私は青年會館へも行つてみたけれども、之は巳に赤十字のする病院になつてゐた。又外に工、農業、敎育、宗教の方面にも大なる活動をみた。「我之に至るは人を使はん爲に非ず、人に使れん爲なり。汝等の內首たらんと欲ふ者は汝等の僕となるべし」と聖書にもある言葉は社會事業の根本である。私は實にあちらの婦人の基督教精神に感心した。然し之等歐米婦人の働は日本にゐてもみる事は出來る。即ち此東洋英和女學校等の如きミションスクールに於ける歐米婦人の働

き、世の人々から捨てられた氣毒な癩病看病者の爲の病院等である。話は要したくないけれど記憶を明かにしたい。歐米の婦人は本國にのみ清い奉仕をなすのみではない。日本に來りて日本人の捨てゝ顧みない人の爲につくしてゐる。之に對して感謝するのみですむであらうか。我國は小さいけれども一等國と誇つてゐるではないか。どうか歐米婦人の樣に生甲斐ある生活をして清い奉仕を外國にまで延して頂きたい。

私は此の一等國の婦人の活動振、外國に於けるをみたいと思つた。多くの外國にある日本婦人は何をしてゐるであらうか。基督教精神を以て外國人の爲に働いてゐるでせうか。

どうか此の會に基督教精神が芽を出し、やがて成つて社會につくし、クリストの御榮を表し、クリストの御働を援けて頂く事を望む。

組織されたる母の愛

矯風會幹事　久布白落實

矯風會とは言を換へていへば「組織されたる母の愛を以てこの社會に奉仕する」といふ事である。何故にかくいふかといふ事について、そもそもの起りを申せば明らかになる。之は一體娘の起した運動ではない、四五人も子供のある世帯を持ち苦しんでゐる母の起したものである。何故に起したかといふと信仰、學問、力のすべての備はれる母が、一家に入り夫と子を扶けてゆくにはどうにもこうにもやつてゆけない問題が起つた。困つて困つて困りぬいた果にその母の考へた事である。「あなたが一人でその事

をしやうとするから出來ないのだ。世界中の母と手をとり國々の母が聯絡してせよ」と胸に分つたのである。こう分つたゝめにその組織が出來たのである。

酒といふものが大變に廣まつた。戰爭はずい分大きいものがあつたが之と（酒と）戰ふものはなかつた、いくら忠實な母が熱心に子を育て夫を扶けても社會が黒雲に被はれてゐる以上は一軒の家に日の照りやうがない。こゝに神の心が起りどうしても全體の母が力を合せてしなければとて戰ひ出したのが之れである。戰にはずい分長いのもあつたが酒と人との戰も決して短いものではなかつた五十年かゝつたのである。之は人間の風俗習慣に戰はねばならないのであつた。どうして二年や三年で一國の習慣がなほる事が出來やうか。ことに日本は何にでも酒がはいつてゐる。かく風俗にはいつた事は習慣以上にぬけ難いものである。この風俗にはいたものは必ず文學に現れてくるのである。この習慣風俗文學の三つにはいつたものは之を引きぬくことは困難である。故に五十年もかゝつたのである。しかも日本でもアメリカでも何十萬といふ母が手をつないで組織してゐるのである。アメリカでは網の目のやうに多くの矯風會がある。そしてお互に心が響くやうになつてゐる、一人でいへば小なる母であるけれど何百萬の同じ心で米國に同じやうにつくさうとしたものはずい分雖いものである、母は一體性根の强いものである。この性根のつよい母だからこの戰が出來たのである。この母たちがぜひとも酒はやめなければならないと思つたのである。そして始めは町の酒屋を祈つてあるいた。しかしそれではうまくゆかない、その後つひに國會に持つて行かねばならないと思つた。そして持つていつた所が、はねつけられてしまつた。このやうにして縣會にもはねつけられた。村會に出してもはねつけられた。ではせめて大學の四里四方丈は酒屋のない様にせんとした。こゝでそれではといふので許された、この小さいものが

基になり村がなり郡がなりといふやうになつて來た、又州でも始めたのである。けれども之はどうしても敎育からやらねばならぬとて書物をいろ〳〵書いた。そして之を國定敎科書にした。こうすれば何萬人何百萬人に敎へられるので都合がよい、その學校敎育が始つてから三十年、禁酒の敎育を受けた人が育つた。方々の市長、社長、工場長等に禁酒主義の人がなつた。隨つてそこにつかはれる人も酒をのむものはつかはぬといふ事になつてきた。そしてかく戰ひぬいた揚句今年の七月一日からとう〳〵アメリカでは酒を造ることが出來なくなつた。母達はどんなにうれしかつた事であらふ。母は一つの社會的罪惡といふものを認めてそれに戰を挑んだのは强い事である。この時始めて國家が救はれるのである。ウイラードはあなたがたの母の心を出してあなたがたの村をお守りなさい町をお守りなさい國をお守りなさいと言つた。母の心を以て社會に奉仕せよといはれたのでアメリカの社會的罪惡に戰ひ殆んど全勝を得てゐるのである以上が大體の過去の歷史である。

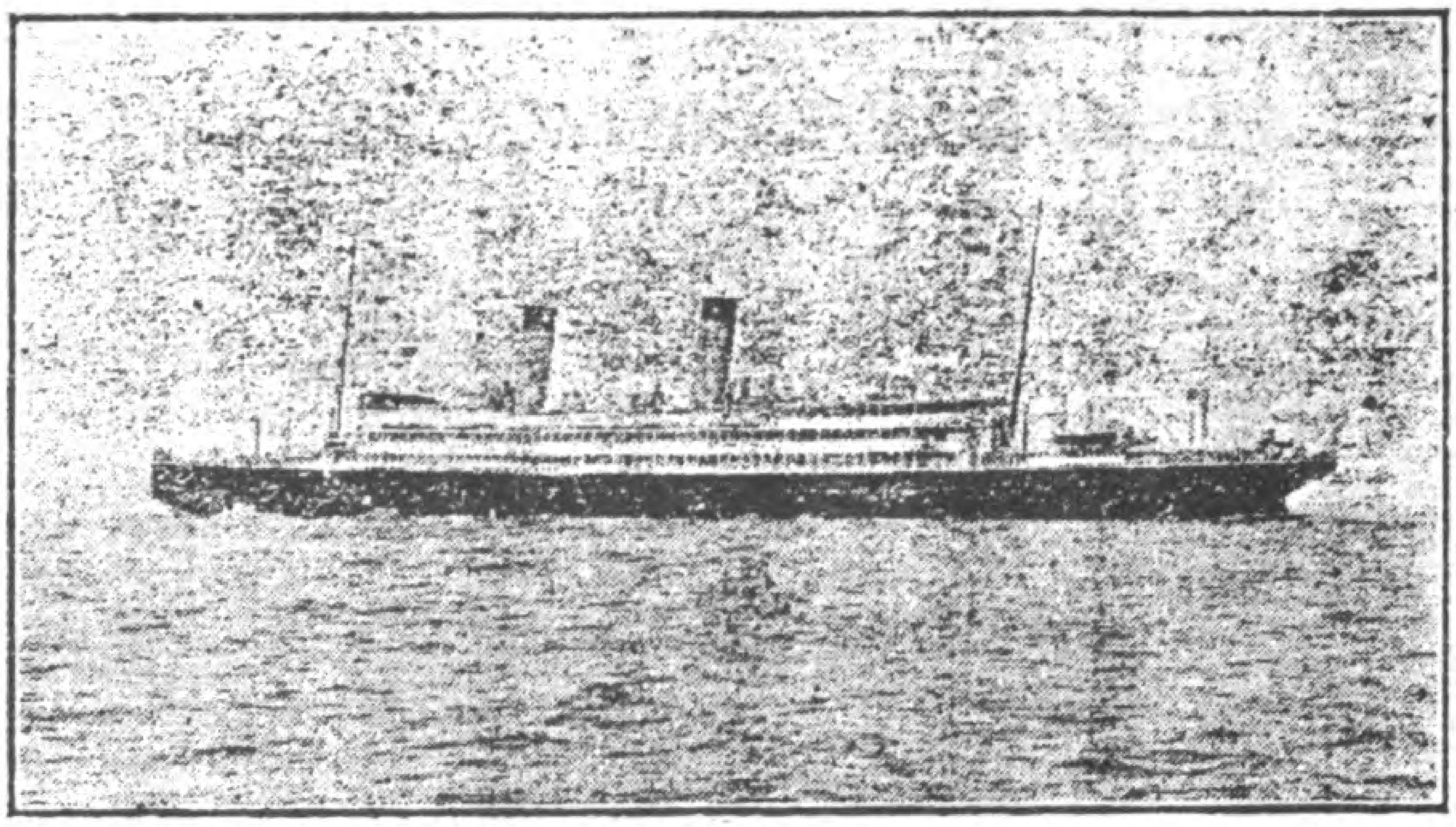
日本にはよい母が多いけれど皆一人ぽっちである。それに向つて組織せよといふのは困難である。日本の母は不自由なものである（第一着物からして）、出あるき難いものである。日本には社會的罪惡がないかといふとなか〳〵にある。習慣上罪惡をそれと思はない事もかなりにあるが之は一般に標準が低いのである。現今に於てこれなら大丈夫といふ夫たるべき男子が幾人あるかといふと決して多くはない。之は實に不幸な現象ではないか。朝鮮と支那とに對して日本は何をしてゐるか。あの人達のふところの中にはいつて罪惡をし、ふところのうちで恥をうけてゐるのである。之は一つの失敗的罪惡である。女子の身體を金にかへる事を何とも思はぬといふ事は日本の隅みから隅みまでにある社會的罪惡である。もし之を日本の婦人が認めたら世界の人が何な目を以て見るかと思ふであらふ。之を思つたらど

うしても日本の婦人の團體は起らねばならぬ。矢島先生はこの團體を日本婦人禁酒會といはれた。しかし、日本には婦人の禁酒會よりまだ先きにせねばならぬ事がある。日本では三千人の母が手をつないで互に國の品位を高めん禁酒せんといつたのである。その時にこの聖らかなクリスチャンの團體は戰をしてもらはねばならぬ。我等の見るべき日本婦人は彼處にありといはれるやうにこの青年會といふものをしてもらひ度い。母といふ時代のすぐに來らんとする諸姉よ、一人の母の愛ではだめである。その母の心を社會の奉仕のために組織して捧げてほしい。一人で捧げたとてだめである。その村や學校を糾合してそこを潔めるために働いてほしいのである」たとへどこのすみに行つても。過去のアメリカ日本將來の日本の矯風會の事を考へるといつでも皆戰爭である。多分この戰は長くつゞくであらう。日本には五百何十ヶ所の遊廓がある。それが一つもとり除かれないのみならず、又新らしいのが出來んとしてゐる。あゝ戰はまだ／＼つゞくのである。しかし母の愛は戰爭が目的ではない、母の仕事は育つるにあるのである、建設的事業が將來の母の愛の仕事とならねばならぬ。日本では此頃子供の産れる數よりも死ぬ數の方が多い、又托兒所の問題は注意がはらはれるやうになつた。又母の勞働法、少年裁判法、結婚法、婦人勞働問題にも皆注意せねばならない。人間が生れてから死ぬまでの歴史は母の愛で注意されなければならない。我々は世界が神の國となるためには國は神のホームにならねばならぬ、ホームになるには父の權利で支配されない、母の愛の心が働かねばならぬ。世男を神のホームにするためには組織された母の愛の仕事は全世界に現はさねばならぬことをよく了解しなければならない」以上

消息（一）

○松本松江氏、横濱共立女學校出身者にて青年會修養會等に數々出席されし氏は同窓生福井氏と共に七月渡米さる兩人共ミネソタ大學に九月入學あるべし。

東洋汽船株式會社



本社 東京市麹町區永樂町一丁目一番地（電話四〇八〇、四〇八一番 本局四九六一、一五三一）

營業所 横濱市山下町五番（電話四四〇〇、四四〇一 四四〇二、四四〇三番 四四〇四）

出張所（神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング 上海四川路ノース、チャイナ、インシユランス、ビルヂング、マニラ、チャコビルヂング、桑港、マーケット街六二五、マーチャンツ、ナショナル、バンクビルヂング、ホノルル、アレキサンダー、ビルヂング）

北米航路（桑港、布哇、横濱、神戸、長崎 上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穩なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
日本丸	同	同	一一、〇〇〇噸
波斯丸	同	同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、ホノルル、桑港 羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
靜洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

THE HOSPITAL PHARMACY.

GINZA. TOKYO.

TELEPHONE SHIMBASHI 2334



◎歐文和文處方調劑
◎歐米有名賣藥各種
◎舶來化粧品各種
◎醫療器械各種
◎舶來滋養品各種

東京京橋區銀座尾張町一丁目一番地

銀座藥品部

（舊聖路加藥品部）

電話新橋二千三百三十四番

弊店は正確誠實迅速を旨とし凡て責任を以て販賣致し候間何卒御用被仰付度候

神と吾との聯結

河井道子

此頃日本の新聞に同盟罷業、勞働問題の出て居ない事はない。又婦人問題も盛に論ぜられて居る、女工の暴動を起した事、藝者が値上げを請求して同盟罷業をした事等も屢々出て居る。かくの如く今まで忘れられた婦人問題が眞先きに書かれるのは、今此の樣な事に人が注意をむけさせられるやうになつたからである。もし金を出さなければ燒き打ちをされるなど丶いふ恐から金を出すやうになると同じ樣に婦人に就ての問題を注意させられる樣な世の中となつたのである。故に我々は早く若き婦人の爲に團隊を作り、此の問題に觸れやうとして居る事は幸福である。現代新しきといふ事は昔きりすとの敎へ給ふた御敎と同じ事である。女といふ事にも矢張キリストは非常に注意を拂ひ給ふた。富の問題に就いても聖書は礎基を敎へて居る。故にキリスト敎青年會の出來るのも婦人問題に先きだつ事は當然のことである。同盟能業も同盟に力を入れて行かなければならない。キリスト敎にては人間同志女同志が同盟するのでない。神と人とが同盟しなくてはならぬ、神と我々は共に勞働者である、此處に大きな團隊があるのである。神と我々が最も親しくなると親子の關係を持つ樣になる、神と親子の關係を持つ事は神の相談相手となる特權を得る事である。此は神が神と人間とは離れられ無いものであると云ふ事を敎へ給ふのである。斯く考へると我々は神の子として置れて居るといふ事がわかる。而して十字架の意味を悟る事が出來るのである。神と我々との關係が明らかでなければ活動は永く續かない、善を爲すに倦む事な

かれとあるが倦きるのは神と人との關係が一時的になつて居るからである、その關係を深くすることを此の修養會で皆樣に願ふ次第である。キリストの敎には色々の譬をもつてその關係をしめして居る、夫婦、親子の愛は神との愛と同じ、皆神の子であるならば一人の人を大切にすればそれは神を喜こばすことになる。一人をいぢめればやはり神に響くである、ソーロはキリスト敎信者を迫害して居た而して彼がダマスコの外で聞いたのは汝何故我を苦しむるや。と云ふ言葉であつた、神には其の傷手が非常に若痛に感ぜられたのである。神の帳面は精細である故に我々の爲す一つの善も惡も皆神に響く、世界の大戰爭も誰が一番苦しんだかと云ふに其れは神である。世に如何なる關係が無くなつても神の關係は絕えない。然どもキリストの十字架が何等までもつき從はなければならぬ。其處で神との聯絡家族としての交りが出來る樣になるのである。キリスト敎は藥ではない、病を得る前の丈夫な時益々丈夫になる營養物である。精神を淸く育てゝ行く樣にその敎を受くべきである。神は如何なる事も爲すと云ふ十字架の力がある、之により凡ての誘惑に打ち勝つ事が出來る、その力を得る事が出來るのは神と聯絡するからである。神と聯絡しなければ人の爲に働らく事は出來ない、信者なる故色々迫害を受けねばならぬ、けれど自分の主義に悖る樣な事があつてはならぬ。此の場所に決心をされた人が多くある、其の人々を我々手をひいて導かれればならぬ。神を信じると誘惑も少くなるし又目の付け處が違つて來る、自分が信仰する事により組、家庭、村を救ふ事が出來る、此修養會にて最も大切なる事は神を握つて歸ると云ふ事である。

消息（三）

○岸文子氏、上海岸副領事の御夫人は九月御歸京なり、十一月頃御良人と共に英國リバプールに赴かる事に決定さる。

○大川喜代子氏、川添萬壽江氏同なみ子夫人の媒介にて八月五日青山日本基督敎會堂に於てメソヂスト敎會牧師飯田錄氏司式の下に松田秀雄氏と結婚さる。

早天祈禱會

早天祈禱會は毎朝教會堂で六時半から七時迄の間に開かれました。青い芝生の上で繁つた木の下に朝日を眺め乍らと云ふのでは有りませんが、掃除の行屆いた腰掛の整然と並んで居る大きな靜かな教會堂に於て、早天に祈る事は一日中の大なる力で有りました、二十三日は大呑久子氏司會で「女子青年會が廣く世に知られ又會がよき働を多くなし得るために」と主題で奬勵がありました。

二十四日、廣島女學校教師鹽見縫子氏の司會で奬勵は「人各々其分を盡すべきで皆なすべきことがある」と云ふのであります。司會者は昔より修養會に數々出席された同情者でありますから、同氏の祈禱又奬勵は非常に力あるものであります。

二十五日、神戸女學院出身杉みさほ氏の司會で「我々は勝手なやさしい十字架を以て萬足するのは恥ずべき事である」と云ふのでありました。同氏は在學中より青年會に力を盡し卒業後市部のため特に虹クラブと云ふ少女會を指導してゐられます、何事にも眞心と熱心の現はれてゐるのは同氏の特徴であります。

二十六日、弘前女學校教師古川たけ子氏の司會で謙遜なよき奬勵がありました。即ち自分は引込み勝で憶病な性質をもつてゐるが、之では濟まない事である、然し此性質に打ち勝つ事が出來ないで毎年修養會に出席はしたいがその報告を九月に全校に向つてするのがつらいが故に出席を遠慮した程であるが此度校長に數名の生徒を連れて監督かた〳〵出席を促されたが實に幸福で、進んで善いものを取らねばと云ふよい奬勵がありました。

二十七日、甲府英和女學校教師向山清子氏の司會で「自重心を重はねばならぬ」と云ふ奬勵がありました、已を卑下して「もう役に立たぬ」と見限るものは他より如何なる刺戟を與へられても役に立たぬ、自ら進んで自重心を起し己が救を忍耐よく神に求むる程自己を大切視しなければならぬと。同氏は青山在學中熱心に學生間に青年會のため奔走されました。此姉妹を通し又他の先生方の力により甲府の

此女學校に靑年會の設置せらるゝ遠からざるを祈る次第であります。

二十八日、大阪女子靑年會敎育部主任の山口秋子氏の司會でパウロがエペソ人に云ふた「神の眞を殘す所なく悉くなんぢらに宣べたればなり」の奬勵がありました。同氏は橫濱共立女學校の出身で卒業後三年間敎師として働き目下大阪に幹事として働いて居られます。誰でも在學中熱心に會の事などに心を留めて下さる姉妹方は、卒業後も愈々會の爲め同情を寄せ應援して下さいます、山口氏はよい好例でありませう。

二十九日、金善氏とて朝鮮より神戸女子神學校へ留學され此夏卒業して後修養會に出席されし同氏に最後の祈禱會を願ひました、「基督が凡ての根本である」と云ふ事を純然たる日本語で十分に御話がありました。

毎日祈禱が引き續きある場合には朝の食事の鈴を聞き損ねた程でありました。

多摩川行き

仙台　阿部エイ

七月二十六日、私共の樂しかるべき日を祝してくれるやうにすつきりと晴れ渡つた日でございました。私共は每もより十五分早いお晝飯をそこ〳〵に濟まして加茂先生の御心盡しの御辨當と委員の先生のお誂へ下すつたおいしさうなお菓子の包とを後生大事と手に〳〵持ち各部長樣引卒の下に玉川にむけ出發致しました。電車の乘り下り又は乘換へは皆都會馴れた方の眞似をしてやがて無事に澁谷に着きました。此處で下車し暫く玉川電車を待ちました、お天氣は益々よくこの日の淸遊もさこそと思はれて腕を躍らし、皆のお話聲さへ樂しげに響くのでした。

二時頃大の期待を抱いて私共は又電車中の人となりました。騷々しい市を離れますと靑々した武藏野を渡る凉風は窓邊にさゞめく乙女等の髮を吹き亂し

て明るい幸福な氣分を囁いて居りました。かなり長い間の後、電車を下り目的の遊園地に向ひました。先づ第一に小高い所に建てられた玉川閣に參りました、古風な朱塗の欄干から見える廣々した武藏野の緑の中を一筋に流れた白い玉川の河原、珍らしい形美しい色の雲が午後の陽に美しく輝いてゐました。さしもに廣い百疊敷の大廣間も花をまき散したやうに微笑の顔に滿ち溢れました。やがて三つ四つ花環のやうな環が作られ歌聲が起る、笑聲が起る、拍手が起る、それは／＼賑かになつて參りました。其の中に阪本先生の司會で各自得意の餘興が始まりました。神戸の方の可愛い〻歌に始まり無邪氣な腕の催眠術、奇抜な義太夫や謡、英學塾の方々のお上手なシュレドー等なか／＼面白く拜見致しました、ミスペレーの吟誦はいたづら少年の態度表情を目のあたり見て微笑みを禁じ得ませんでした。又西洋の先生方のジャンプラオンスの歌の滑稽な態度には皆々大笑ひさせられました。

やがて各自が思ひ／＼の場所で各自持參のお辨當を喫しても宜しいとの許可が出たのでお互ひに打ち連れ立つて此家を出ました。私共は河井先生と渡邊先生と御一緒に河原へと道をたどりましたが中々河原へは出る事が出來ず却つて始め見えてた河原が見えなくなりましたのでこりや大變と畑に居るお百姓や其の邊に居る小供達に道を聞きながら草を別け畑を横切つたりしてやつと淡い月見草咲く奇麗な河原に出ました。世に名高い玉川もすぐと勇みに勇んで足の歩びも輕々と進みましたのに、行けども／＼水の影がみえません、何んて大きな河原だらうと半ば驚きつ〻五六町進みますと漸く靜かに流れてる澄んだ水の傍に出ました、此の水が東京市民總てを養ふ物かと思ふと手で攪き廻すさへ躊躇させられました、やがて河井先生は舟を漕ぐ人をお呼びになりまして舟に乗せて貰ひ、間もなくして私共は向ふ岸に着きました。河近くの赤毛布の敷かれてある臺に腰を掛け河井先生の感謝のお祈りの下に美はしい自

然の景色を讃美しながら各自持參のお辨當に舌つゞみをうちました、暫時の休息の後河原に下りて讃美歌を口吟みながらあちこち逍遙しました、静かに平和に流るゝ玉川の流れと落ち着いた涙ぐましい落日の時とはよく調和して私共は深い思ひに充されました、再び靜かな水上を滑り行く舟上に座して心行くまで美はしい自然につゝまれ靈的な空氣にひたりました遠くの森より静かに夕映えはかゝつてピンクの雲は紫に變りうつろひ行くのでした。時間に制限がありましたので惜しい別れを玉川の流れに告げて停留所に着きました時、黄昏の色の中に今日の樂しさを繰返す華かなほゝゑはあちこちに見えました、歸りの電車の窓に迫りくる夕暗の色が濃くなつてまばらに見えてた農家の灯が華かな市のガスの光に變つた頃私共はもう澁谷に着いて居ました、光りまばゆい都大路を電車で通り私共の一週間の住ゐ東洋英和女學校に着きますと行きとゞいたこの學校の方々の御親切にその日の疲勞を忘れさせられるのでしたほんとに此一杯の麥湯渇き切つだ私共は實に甘露もかくやと思ふ程でした。

會ふ人毎にこの日の樂しさは繰返され、夜の夢にさへ浮ぶのでした。

樂しかりしこの日の印象は永久に私共の若い魂の上に大いなる喜びを持ち來つてあの靜かな川邊を歩みし時のやうな靜かな敬虔な氣分になつて神の御前にひれふしたい心地になるのでございます。

第十四回夏期修養會

出席者總數、四百七十二人

內譯、講師十七人、女子青年會幹事委員三十一人

會員及學生二百九十八人、家庭にあるもの六十八人、教師三十四人、事務員十一人

傳道婦五人、舍監四人、保姆三人、女中三人

代表されし教會、日本キリスト、メソヂスト、組合、フレンド、聖公會、統一教會、美普教會、市民

教會、クリスチャン教會、救世軍。

○代表されし學生部　廿三

フエリス女學校（横濱）　弘前女學校（弘前）
同志社女學校（京都）　東洋英和女學校（東京）
遺愛女學校（函館）　共立女學校（横濱）
神戸女學院（神戸）　捜眞女學校（横濱）
東京女子大學校（東京）　女子英學塾（東京）
青山女學院（東京）　横濱英和女學校（横濱）
金城女學校（名古屋）　プール女學校（大阪）
福岡英和女學校（福岡）　梅光女學院（下ノ關）
ウヰルミナ女學校（大阪）　山梨英和女學校（甲府）
廣島女學校（廣島）　靜岡英和女學校（靜岡）
宮城女學校（仙臺）　女子學院（東京）
札幌女子青年會（札幌）

○代表されし支部　五

東京女子青年會　横濱女子青年會　大阪女子青年會
神戸女子青年會　京都女子青年會

○代表されし他の學校　卅六

東京駿臺英和女學校（東京）　裁縫專科女學校（東京）
普連土女學校（東京）　順正女學校（高梁）
安房高等女學校（北條）　尚絅女學校（仙臺）
東華女學校（仙臺）　神戸神學校（神戸）
川越高等女學校（川越）　和洋裁縫女學校（東京）
音樂學校（東京）　女子聖學院（東京）
共立女子職業學校（東京）　武田裁縫女學校（東京）
女子高等師範附屬高等女學校。專攻科。小學校（東京）
戸板裁縫女學校（東京）　成女高等女學校（東京）
淑德高等女學校（東京）　双葉高等女學校（東京）
三輪田高等女學校（東京）　府立第一高等女學校（東京）
府立第三高等女學校（東京）　跡見高等女學校（東京）
香蘭神學社（東京）　森村小學校（東京）
靜岡女子師範學校（靜岡）　女子神學校（東京）
島根師範附屬小學校（島根）　學習院女子部（東京）
東洋家政女學校（東京）　日本女子大學校（東京）
女子商業學校（東京）

本部及支部委員幹事出席者

本部、井深花、三谷民子、長谷川喜多、今西、ペーチ、河井道子、堀順子、陶山よね

東京支部、佐藤隆、山田琴子、淺井治、加藤高子、中西司娜、鈴木トミエ、渡邊百合、カフマン、羽太鈴江。

横濱支部、野村美智、新渡戸すゞ、上野とし、青木房枝。

大阪支部、中路ちか、山口秋。

神戸支部　長谷場まさじ

京都支部　クロフオード　林あき

横濱女子青年會報告

教育科の組織、社交部、クラブの働きは東京の女子青年會と略々似通つて居りますから除き、只今は移民部の事業に其他二三に就きて概略お話することにいたします。

（一）移民部とは御承知の如く海外に渡航する婦人の爲めに豫め外國の風俗習慣を會得せしめ、日本の代表的婦人として他國に恥ならむ樣導くと云ふのが目的で御ざいまして、寄宿舍の設備もあり船の出帆の時迄期日の長短に隨ひて、外國語の練習を始め風俗、習慣、西洋料理、裁縫、衞生等を教授いたします、船の出帆の時は必ず三等婦人船客を訪問いたしまして、少しも素養のない婦人等にせめてもの船中の心得、上陸後の注意をいたします、目下日米、日支の問題の熾んな時に當り、此働きの必要と責任を切に感ずるので御座います。

（二）横濱は交通の頻繁な港でありますから臨時的に種々の働きが湧いて參ります。其一例を一つ申上ませう、本年の五月頃米國のロスアンゼルスの或牧師から手紙が參りまして、近くハームス夫人と云ふ人が日本人の小供三名を連れて日本へ行くから宜しく賴むとの通知が有りました、果して其御夫人は去る七月十七日の春洋丸で來朝されました、見れば六つを頭に五つ四つと云ふ小い三人の男の子がママ

近き處で農業を營んで居つた山口縣の人で有りましたが、昨年の流行感冒の時不幸にして父も母も又十八才になる兄も一ケ月の間に皆永眠してしまひました。義俠に富めるハームス夫人は後に殘つた三人の小供を引取り六ケ月の間我子同様に世話をされました。偶々國元へ屆ける時に當り何分三人の子供で然も年若なので適當な人が御座いません、其れを同夫人は自ら進むで遠い此の日本迄送り屆けられたのです。私共は日本人として此夫人の同情と親切に感激せずには居られません。故に私共の女子青年會は出來得る限り同夫人のため便宜をはかることに努めました。此種の働きは時々起りますので喜こむで致して居ります。尙右の夫人は其亡くなつた三人の人々を死に到る迄看護され、御自分の血を取りて血清注射迄されし等は普通の人の及び難き善行と存じます。

旬、
サイベリヤの男子青年會の招聘
お口より出る美しいお聲を以て淋しい
ために旅立たれました。何んなに多くの
オルチンに依つて慰められて居りま
共は同姉を女子青年會の働きの一部として
リヤ迄送りました事を大に誇と存じて居り
事業の一分始終を申上度存じますが余り長
せます故一二の例を申し上げました次第で御
す。

京都支部

京都ではまだ市女子青年會の組織までに至つて居りませんが只今のところ創立準備事業として左の通りの組を開いて居ります。

一 英語聖書の組（一週一回）同社社女學校専門部（通學生）

二 邦語新約聖書及譬話の組（月一回）同前

三英語聖書の組（一週一回）佐伯病院看護婦
四聖書の組（一週一回）西陣織物工女等
五英語邦語讃美歌」組（一週一回）府立第一高等女學校
　フオクダンスの」生徒
六同　前　市立高等女學校生徒
七英語の組（一週一回）佐伯病院看護婦
八英語の組（一週二回）家庭にある婦人等のため
九英文雜誌讀書の組　月二回英學塾出身者及英語の素養ある者のため
十日曜學校（一週一回）近隣の兒童等の爲め

未來の計畫としては九月より上記の英語の組の外に官私立女學校生徒及府立病院看護婦等の爲に更に廣く新らたに英語の組を開く事と西洋料理及洋裁縫の組を設ける考で御座います。今一つは小さき寄宿舍を開く事で場所は西洋幹事住宅の隣の日本建の家で、その二階の四室を寄宿舍に當てる事に定め既に幼稚園保姆數名九月より寄宿さるゝ事になつて居ます、京都は至つて佛教の盛なる上に舊習を重ずる土地でキリストを中心とせる此會の働がどれ程重要であるかを感ずる次第で今後尚一層上よりの御助を仰ぎつゝ努力いたしたきものと思つて居ます。

海濱の休樂所

女學生や令孃方が山や海とで競爭の如く七八月を避暑地に暮し、自由な幸福な生活を樂んで居る中に同年輩の姉妹中には三伏の炎暑をも厭はず朝早くより夕方おそく迄、或は徹夜で事務を執つて居る者が澤山にあります。之等の人々の奮鬪努力は尊重すべきもの又彼等に慰藉の道を講じ發展の道を拓くべきものであります。東京女子青年會は此處に着目して七八月の二ケ月間鎌倉に小さな借家を利用し、休樂所として有職婦女子の爲開放されました。或時は鐵道院の姉妹或時は事務員、或は交換手など代る〲此場所を利用し一同大滿足を得た次第であります。此處は八疊、六疊、三疊、二疊、台所、湯殿付の海岸に近き家であります。七月中一兩日を此場所に送る者には女子青年會の誰かと同道し、食料持參で自炊し、八月は一監督者をおき凡ての世話をする事になりました。忙はしい姉妹がかゝる休樂所を如何ほど樂しむかは左に紹介する手紙にてよく分ると存じます。

一　鐵道院　林田濱

先日はあまり嬉しさに大變失禮致しました、何卒

いのか如何してよいか分りませんでした。先生こんな懷かしい樂しい晩が御座いませうか、それは樂しい嬉しい面白い晩は幾らもありました。けれどもその嬉しさ樂しさが特別違ふのですもの、なんて幸福なのでせう鎌倉でつく〲そう思ひました、今迄勤

一

鐵道院 林田濱

先日はあまり嬉しさに大變失禮致しました、何卒御許し下さいませ、先生本當に私勿體ない、嬉しかつたり樂しかつたり何卒これで御許し下さいませ此より申上げる語を知りません。土曜日の晩、市川さん藤本さんとでお使にいらしやいましたでせう、私家の前でお待ちして居りました時まだ月の出ない暗の中で前には山を控へ、後に浪の音を聞きつゝ遙か彼方に淡く光る星を眺めました時何とも言ひ樣のない此の自然の眺に不知と手が胸に合はさつて居りました。そして自分が如何してこんな所に立つて居るのが不思議でたまりませんでした。先生嬉しさに煩へるなんてそんな馬鹿なことは御座いません、けれど蠟燭一本の光の中で蓄音機を靜に椅子によつて目を閉ぢて聞いて居りました時嬉しいのか勿體ない嬉しい面白い晩は幾らもありました。けれどもその嬉しさ樂しさが特別違ふのですもの、なんて幸福なのでせう鎌倉でつく〲そう思ひました、今迄勤めが厭々で時には母にくどいたり致しました、「何だ勤人が」と人に見下げられる樣な僻がありました、同年位の學生を見ますと羨ましうて〲堪りませんでした。それが思ひも寄らぬ青年會のお陰で先生方の何の區別もなくお接し下さいます御心によりまして如何程慰められませう、急に肩身が廣くなつた樣な氣が致しまして、增して私達の爲特に休養所まで御造らへ下さいました御厚志何と御禮申上げてよいか分りません。ですから私達勤めるのが一寸とも厭でなくなりました、勤めて居ればこそこんな嬉しい事も樂しい事も出來るのですもの、之によりて鐵道院にも深く感謝致して居ります、之から尙一層奮發して益々成績を上げるつもりで居りますし。鎌倉で

皆様お上手にお料理なさるのに私何にも出來ないので恥かしくなつてしまひました。私も此から少しでも習つて今度は必ず何か造へて召上つて頂きます、鎌倉で色々教訓を得て嬉しくて堪ません。

二

鐵道院　藤本孝子

一日鎌倉に參りました折には種々様々御世話様になりました、あの時何か感じた事をと加藤先生は申されましたが、私の如き者は心でこそア丶ヨカッタ……と申しますが筆で申上げる事は少も出來ないのです、けれど若しお催促でもされてはと思ひ不精な筆を取りました何卒御笑ひ方々御讀み下さいませ。

鎌倉よ〳〵と何時よりか申して居りました事やらやつと今日になりました。七里ヶ濱の夏の夕を囁の中に見出す事が出來ました。あの廣い海原一面に夕霧が立ちこもり薄黑き波の間に魚船の灯の美しき其景色を眺めて居る者は三四人連なる乙女、涼しき浴衣打ちかけ皆が輪になつて眺むる私等の一行、そして淸き讃美歌を歌ひ樂しく語る其の有様凡てが繪の如く又夢の如く私は暫し我を忘れて居りましたが友の聲にやうやく我に歸つたので御座います。かくして第一日を樂しく歌ひ、語り樂しく食して過しました。

二日、あまりの心地よさに眞から寢入つてしまひました、惜しい事には加藤先生に炊事を取られてしまひました、何と云ふ朝寢でしたらう。私の床を離れた時は日は既に高く上つて居りました。此景色又く繪の如く夢の如く口にも筆にも盡せませんでした。先生の御祈禱のもとに朝食を濟ませ後讃美歌を歌ひ濱にと下りました。其の時の有様！何人も憚る人なく大手を振つて波と共に走け遊んだ時の面白さ樂しさ手の舞ひ足の踏む處を知らずに砂濱へと私は倒れました、そして第一日も第二日も樂しく歌ひ樂しく語り樂しく食して暮しました事等我獨り心ひそかに喜んで居ります、そして私の近頃の幸福なる身に又幸福なる道へ〳〵と進んで行く自分がよ

く理解されて參りました。青年會の諸先生方は私等の如き一段下りたる人間をも隔なく却つて學生の皆様より一層よくして下さる様な氣が致します事等私の身に取りましては何程感動を御與へ下さつたか分りません。私非常に氣が小さく何事にもくよ〳〵す

濃藍色のそれに處々鮮な淺黄色の透いて見ゆるあの總て何物をも入れる海の面を恍惚と見入つて居る時は惱みも苦しみも皆投げ捨てゝ自由の天地に親しむ事の出來た事を心から感謝致しました、同時に私達をかくも幸福にお導き下さいます方々へも厚く感

様より一層よくして下さる様な氣が致します事等私の身に取りましては何程感動を御與へ下さつたか分りません。私非常に氣が小さく何事にもよく／＼する身が近頃は大變に變つて參りました、故郷に歸りましても父母兄弟を喜ばせる事が出來ます、父母も私のよろこばしき顏を見る事が出來ます、故に家庭は非常に樂しく喜を持つて日を送る事が出來ます、之等皆青年會の御陰と何から何迄感謝して居ります。

三　鐵道院　市川咲子

今日も亦激しいお暑さ扇の風のみ賴りに一日を過しました。机に向ひつゝも昨夕樂しく愉快に送つた事等が一つ／＼歷然と浮び出て來ます、彼の篠突く樣な雨にも屈せず出かけたゞけ先方へ行つて日本晴の好天氣も嬉しいものの一つ。はるか江の島を眺めし時は惱みも苦しみも皆投げ捨てゝ自由の天地に親しむ事の出來た事を心から感謝致しました、同時に私達をかくも幸福にお導き下さいます方々へも厚く感謝致します。皆様の御心盡しのお馳走を頂いた時は日頃餘り好ない物でも大層おいしく、面白くも無い事も心に喜が滿ち／＼て居ますから少しの事も直に笑ひ出し常に余り笑はない私迄が嬉しくて／＼獨りでに笑ひ出す樣に成りました。白い帆船の青い海を進み行くを眺めつゝ又寄せては返す大波小波の音を聞きつゝ讃美歌を歌つた事や、海に石投げ砂いぢりしました事は一生を通じての嬉しい思出の種となりますし、まだ／＼樂しい事が多く御座いましたが拙い筆で否言葉で盡す事は出來ません。只「よかつたわね」で總てが盡されて何も云へません、毎日コツ／＼と机に向つて各自のお仕事をしてゐる人々が一日をかくも樂しく愉快に過すと云ふ事は如何に

有益に身體の爲にも成る事でせうと思ひます、之から又新機一變して一生懸命自分の進んで行く道に勵みませう。

修養會感想

一　長島幸子

待ちに待つて居りました修養會も終りました、先生種々と御世話下さいまして誠に有難うございました、私はあの一週間に於きまして凡ての事に勇氣付けられ今は新しい力と望みを持つて居ります。感じて色々決心いたしました事を實行せんと努めて居ります、實に世には私共の爲すべき事が澤山に有る事を悟り小さき者にてもそれらの事に神からの御助を得てする時には凡て出來る事を知り、是よりは神の御力を仰ぎて世のために聊かなりともいたすつもりです。

二　大石重代

此度は神の御旨で本校よりも大勢の代表者を修養會に出席をゆるさせ、あまつさへ私の如き者までも招き給ひ澤山の力ある活修養なさせ給ひし事はとても言葉や動作にはあらはす事が出來ず唯深く神に感謝致すより外に言葉も御座いません。

私は信者となるまで修養會に行く事も敎會等に開かれる說敎等にも出席する事も家庭より許されずに有りましたのに三月洗禮を受ける事を許されてからはいづこへも出席することを許され、又修養會にも出で澤山の敎訓、力を得ました。私はこれを長く一時の感情でなく胸に刻んでおく事を希望して居ります。

修養會の間皆樣方が御親切に御世話下さいました事も嬉しく組の方々も喜んで居りました。先生の御話の中にも色々御座いましたが學校も青年會員としても本部又は市部の會員と成る事は出來ますでせうか、色々と青年會に就いて御話を伺ひ日本人

の爲め又その他の爲に悪しきを善き道に導れなる者を幸福ある者とお働き下さる青年會の爲に深く〳〵考へさせられました、自分は力弱き者で萬分の一も青年會のために盡す事が出來ませんが自分の父母又はその他から與へられる金の中幾分かを捧げたいと

事を思はせられました。そして岡井先生の最後のお話は決して忘れられないと思ひます。近頃どうも頭が悪いので何でもかでも忘れてしまふ、決して覺えてゐないと云ふ私も不思議にあのお話丈はちやんと覺えてゐます。中々涙を出さない（感じこう〳〵して、

考へさせられました、自分は力弱き者で萬分の一も青年會のために盡す事が出來ませんが自分の父母又はその他から與へられる金の中幾分かを捧げたいと考へました。大勢の家庭の中に信者としては一人で仲々難づかしい事も困る事も澤山にありますが、又一方には信者として別の方面に信者の扱ひをされる事もあります、或一方からは惡い方法かも知れませんが學校を出て行く時は靑年會からも遠ざかり修養會へも出席する事も出來ません。私は來年は學校には居りませんがもう一度修養會へ出席致したいと思ます凡て心に感じた事を記します。

三　三島　渡邊文江

田舍者の私は皆樣方が本當に氣措けなく心から親しんで居らしやるのを見て驚きました。慥かに私共の間ももつと〳〵あの樣にならなくてはと三島の

が惡いので何でもかでも忘れてしまふ、決して覺えてゐないと云ふ私も不思議にあのお話丈はちやんと覺えてゐます。仲々涙を出さない（感じたりして、惡い方へはまた直ぐ出るのですが）私さへ、決して涙をこぼすまいと思つてゐたのに不知ぬ間に膝の上にポタ〳〵落ちてまゐりましたもの。私が病氣だの何だのつて云つてゐた自分が情けなくなりました、尊い生を受けて世に生れる事が出來た私の樣な者でも無意味に生れた譯はない、必ず何か私の使命があるのでせうに氣分が惡いの何のつてだら〳〵して大切な時を過して行くのが怖ろしくなりました、確かに或程度迄は不信仰のしるしだと思はせられたのです、醫者へ行つても如何しても思ふ樣に療らなつたが修養會の先生にいやされたのですから感謝に堪えません。

四　白河　菅井リウ

私事東洋英和女學校に開催されし修養會に末席をけがす事を得感謝致居候數々なる大切な說敎も尙耳に響き居り私を勵し呉れ申候來年も出來る限り參上致す事に候、青年會の爲に御働き遊ばす皆樣の上に神の祝福あらん事を祈り上候。

五　東京　相原榮子

私は修養會によりまして神樣から惠れしところの賜はとても此拙ない筆で表はす事の出來ぬほど大なる感謝であります。神樣は此汚れた罪人をも捨て給はで救つて下さいました。

諸先生方から伺ふところの御話に私は實に過去を顧みて煩悶しました、丁度私はキリストがゲッセマネの御祈りの時の弟子であつたと思ひました、不忠實な僕、神樣から放れて居た子供であつたと思ひました時、余り過去の罪の恐ろしさと重さに責められて苦しみました、思はず心の底から湧き出る悔恨の涙に責められました、そして今迄の自分の行爲、心を考へて見ました時、何と云ふ汚がれた精神を持つて居たかと眞に恥ぢ入りました、何故私は薄い信仰を持つて居たのに平氣で居りましたでせう、何故神樣に逆つた汚がれた心、行爲を平氣で居つたのでせう、澤山の人達の中へ平氣で交つて居た事を思ひますと自分の心に不思議と云ふよりも實に情けなくなりました。今迄は大した罪とも知らずして當然の事の樣に考へて行つて來た事等も、今の此救はれた悔改めし眼から見ます時、凡てが罪惡に見え出して來ました。あゝ自分は惡かつた〳〵と思つた時かつて覺えた事のない苦しみが燃え出して、平氣で行つて居りました罪が一度にヒシ〳〵と胸に迫つて來ましたあの時胸が搔きむしられる樣に思ひました、涙は止度もなく流れて來ました。今迄でも青年會の聖書の時先生の御話を伺つて居る中自分を顧みて涙の湧いた事も時々ありました、恥しさに顏が上げら

れないで居た事も御座いましたし、然れども未だ其時には其程大して罪だとも思ひませず、又自分の思つた樣に眞の愛を實行する事が如何しても出來ませんでした。然し今度こそ眞に自分と云ふものは罪の塊であつた事を悔いました。キリストの精神を胸の

ました。眞心を持つて祈るとき神樣は赦して下さる事と安心しました。罪深かつた相原榮は完く清められました、悔改めました、自分の罪が見えました、御喜び下さいませ、聖書の組で伺つた御話が無駄になりませんでした、心の中に刻み込まれてあつた事

た様に眞の愛を實行する事が如何しても出來ませんでした。然し今度こそ眞に自分と云ふものは罪の塊であつた事を悔いました。キリストの精神を胸の中に描いて居られる方々を見ます時、自分が全く情けなくなりました、何故神様の眞當の愛が解らずに居たのでせう、愛、恩惠を感謝して居りましたなら人を羨む事も無く、恨む事も無く、口惜しがる事も無い筈でした、人に對しての惡感情も起らない筈でありましたのに。色々の思ひに捕され感情の奴隷となつて居りましたのは冷えた信仰の確かな表れです、かく種々考へました時針にさゝれるやうに苦しく想いました。青年會に出入りして清い空氣に自然と感化されて、救はれつゝありました時、修養會によつて私は完く救はれました。止度もなく流れ出る涙に責められた時、傍に居られた先生から色々と御話を伺ひ御慰めを頂いて眞當に清い心地になり

れました、悔改めました、自分の罪が見えました、御喜び下さいませ、聖書の組で伺つた御話が無駄になりませんでした、心の中に刻み込まれてあつた事を御喜び下さいませ、諸先生方を通して完く救はれました事を厚く御禮申上げます。以後は行を改め眞の基督者になる決心です、弱い私の心の中に入り込んで來る惡魔と戰ひ誘惑を退けて、キリストの精神を心から放さない様に努力します、凡ての惡魔を心の中から去らせる力を與へられるやう祈ります。

消　息（二）

○粕谷よし子氏、九月渡米にてウエスレー大學に入學さる由。

○ハーツホン氏、永年女子英學塾に教授されし同先生は休養のため九月七日米國に歸國さる二年後は再び御來朝あるべし。

○鈴木みよし氏、友愛會々長鈴木文治氏の御令妹なる同氏は數年仙臺宮城女學校に教鞭を執られしが今回渡米桑港に出立の由。

○三谷民子氏、此秋上海に傳道に赴かる事略々決定。

ギヨン夫人傳（續き）

森田松榮

ギヨン夫人を訪づれて教を乞ふものは益々多くなり、既にキリストを信ずる者は愈深く信仰に進み、未だ神を知らざりし者は、救主を知るやうになつた。或る有名な醫師は、職務の繁忙に追はれて信仰生活を營む暇がないと彼女に語つたところ、彼女は「神の愛は人生の義務と矛盾するものではないのですから、神が攝理で定め給ふ職業が、不信仰の申譯には決してなりません」と答へた。名醫は後に立派な信者となつた。彼女は慈善病院の設立にも盡し、時には隣村までも出懸けていつて、傳道に盡した。其の中コンブ師をロマから歸り、共に心の宗教、信仰稱義を唱導し、信者求道者は益増加した。一方反對者等は極力妨害し遂に監督に迫つたので監督は彼女を異端として其の教區追放の命を發し、コンベ師も新運動參加の廉により、同じ命を受けた。彼女は監督に再三辯明書を送つたが甲斐なく、ゲックスを逐はれてツントンに來た身が、又もや行途のあてなく逐はれる事となつた。此間にも、彼女に信仰上の教を受けに來る男女は引きも切らなかつたが、彼女は幾分健康を害つてゐたのと、多くの人を滿足させる爲の方法として、切に著述の召命を感じたので、訪問者に懇願して、暫く靜居に日を過した。

聖旨と信じて著述に志したが、ペンを執つて見れば第一句の書き出しが思ひ付かなかつた。然し次第に想は湧いて信仰に關する有益な書は成つた。書物の内容から思ひつき、アモス書五〇二十四の「公道を水の如くに正義をつきざる河の如くに流れしめ

[illegible]と命名した[illegible]心の宗教を扱かつた信仰涵養の良書である。

今や「枕するべき所なき」彼女に一通の手紙が見知の人から來た、「異端」の宣告を受けて以來、侮蔑と迫害とに圍まれてゐた、彼女に「安んじて來られ

[illegible]

しか所のものはギヨン夫人の主張と共運動が少なくなかつた。羅馬教會は其著を異端と宣言し、モリノ初め其弟子なる多くの人々（中には學者、貴族の男女が少なくなかつた）を投獄した。モリノは敵味方ともに敬仰措く能はざる純潔敬虔の一生を送り、神

知の人から來た、「異端」の宣告を受けて以來、侮蔑と迫害とに圍まれてゐた、彼女に「安んじて來られよ」との招待で、ソントンを距る東南百五十哩餘のツーリンに住む某侯爵夫人からであつた。彼女は寡婦で敬虔な生活を送つてゐたので、ギヨン夫人は娘と巴里以來伴つてゐる女史一人と共に來つて住み、靜かな生活を送り、重に宗教上重要な地位にゐる人々と交際をした。彼女は何所にゐてもペンを休ませた事のない人で、著述も四十巻に上つてをり書簡集丈でも五巻あつて、各階級の人を網羅し、宗教家、神學者、科學者、外交官、貴族、男女のすべてに亘つてゐる。

當時伊太利では、モリノが心の宗教を高調し其の書“Spiritual Guide”は二十箇の國語に譯され、彼の弟子となるものは急激に増加してきた。彼の提唱

め其弟子なる多くの人々（中には學者、貴族の男女が少なくなかつた）を投獄した。モリノは敵味方ともに敬仰措く能はざる純潔敬虔の一生を送り、神の平安に滿たされて牢獄に死んだ。

彼女はツーリンは暫し迫害の嵐を避ける港ではあつても永住すべき傳道地ではないのを悟り、一旦故郷巴里に歸るに決して此所を立つた。彼女は途中でグレノブルへ立寄り暫く落着いてゐる中に、彼女の到着は町人に知れて、宗教家を初め教を乞ひに來る男女はまた家に滿ち、彼女を駁撃の意氣込で來たり、婦人の癖に多くの男子の師と仰がれるのを非難して議論に來た人々もあつたが、彼女と語る中に、彼女の信仰に服し、却て彼女に從つて傳道する者もある程になつた。彼女の有名な“A Short Method of Prayer”は當時の著である。數年間に五六版をね一部に尊重されると共に形式的な一部からは非

された。彼女は聖書の註釋にも筆を執つた。彼女は婦人修道院で姉妹等の信仰を鼓舞し、又同地に慈善病院の設立に盡した。此の頃遠い修道院を訪づれたが、其所は曾て女人禁制であつた位なので、山河を拔渉しての彼女の訪問はいたく驚かれたが、彼女は斷食等の嚴しい修道院で心の宗教を切言した。

一方に彼女の傳道が成功すると共に、他方に反對者攻擊者は益々猛り立ち、グレノブル監督に迫つた彼は博學敬虔な人、ソルボン大學で博士になつた程の人で、彼女を理解し好意を以てゐた。然し反對者の氣勢が餘り猛烈なので、彼女は勸められるまゝにツーリンを去つて、一六八六年マルセイユに着いた。

マルセイユでも他と等しく彼女を景仰するものと彼女を異端しするものとがあつたが、後者の勢が烈しいので、彼女は又もやツーリンへゆく事に決した。漂泊に漂泊を重ねて、故國の港へ歸れば、此所でも亦容れられず、遥に又遁れ場をもとめ行く路々小屋住ひでも安全なわが家のある人々を見て彼女は漫ろに一種の感を催した。

ツーリンへの道では、或時は辛く難船を免れ、或時は山中で剽盜に襲はれ、或時は惡い輿舁に夜道を苦しんで歩き、彼女一行は多くの苦難を甞めつゝ辛くグレノブルに着いた。此所では前に夫人に師事した者は勿論、反對した者迄非常に夫人に同情し歡迎したが、彼女は健康を甚しく害してゐたし、人々から巴里歸國を切に勸められたので、人々と惜しい袂を分ち、ツーリンで以前世話になつた侯爵寡婦を訪問し、久し振りの再會に舊交を暖め、貧者病者の救濟に盡力せる其の友を鼓舞して、巴里へ出立つしたが、此時は來る時と違ひ、グレノブルから監督からの人も伴つてくれ、無事に巴里に着いたのは一六八年七月で五年振りであつた。

彼女はさゝやかな家を借り、二男一女と共に絶えて久しい家庭團欒の生活をした。彼女の周圍には多くの人々が集まつて來た。然しそれは昔の如く社交

界に瞬めく人外ではなく、すべて信仰の友で、大學の神學教授、僧院長などもゐた。彼女は信仰の爲婦人會を組織したが、會員は主として公伯貴族の婦人であつた。

其中コンブ師も巴里の傳道が着々進んで、廣く感

想の著述をなす事、四、伊太利獄裏のモリノスと彼女が通信をなす事等であつた。モリノスと彼女とは宗教上共通點はあつたが、兩人はもとより互に相識なく、通信などは曾て一度もした事がなかつた。彼女は一六八八年一月

人會を組織したが會員は主として公伯貴族の婦人であつた。

其中コンブ師も巴里の傳道が着々進んで、廣く感化を及ぼしたが、反對派に憎まれ、モリノス一派の異端を說くものとして、王命に由り、正式裁判なくして、バスチルへ投獄された。彼が獄吏から尊敬されることが知れると、反對派は彼を他の監獄へ移した。彼は斯くして轉々法所に移され、獄裏の生活二十七年の後一八一四年病院に移されたが程なく死んだ。

迫害の手はギヨン夫人に及び、彼女の集會に出た故を以て、或は單に彼女の著書を賞めたといふ丈の故を以て追放されるものもあつた。又無根の說を捏造して、彼女を中傷する者もあつたが、遂に彼女は王に告訴をされた。罪狀は、一、異端の說を立てること。二、私かに信仰の集會を催す事。三、危險思

宗教上共通點はあつたが兩人はもとより互に相識なく、通信などは嘗て一度もした事がなかつた。彼女の僞手紙さへ造られた。彼女は一六八八年一月王命により聖マリア修道院の小さな一室に病後衰弱の身を唯一人監禁される事となつたが、王命を齎した使者は彼女の平安に滿ちた輝ける顏を見て非常に心を打たれた。彼女に同情した者達も追放の憂目に逢つた。

監禁中の彼女が一番辛く感じたのは、住難い禁錮室でも監守人の殘酷さでもなく、子供の消息の一切きかれない事であつた。彼女は以前コンベ師から命ぜられた生涯の記錄を日々書く傍、信仰上の通信も怠らず、又詩作にも從事した。

或日國王ルイから使者があつて、彼女の娘を某侯爵と結婚させる企に國王は贊成である故、彼女も許可すれば、一週間以內に出獄さすべしとの事で、

つた。某侯爵が信仰の人でないのを知つてゐた彼女は、如何して大切な一人娘を許し得やう。彼女は斷乎として拒絕した。

「神は苦難を許し給ひますけれ共、不義を許し給ひません。……私は娘を犧牲にして自分の自由を買ふ事は決して致しません。」

王は激怒した。彼女は終身禁錮を申渡された。後彼女がひどく病んだ時又、使者が來て、彼女の娘の結婚問題を申出たが、彼女の答は前と變らなかつた。(未完)

病床の獨言

一會友

十六日位の月だらう、まるで秋の月のやうに冴えた光だ、すべてのものを照しぬいて自分の枕もとへおちてゐる。なんと云ふ奇麗な光りだらう、暗の夜の隅々までも照し出す此光此の月の前には惡も行はれまい。スウイッチの音がすると家の中は急に暗くなつた、いよ〳〵月の光が明るい。姉が椽に出てしやがんだ。我罪人の頭なれども、主は我ために、命を捨てゝつきぬ、命を、與へ給へり。讃美歌三百五が二人の口から靜かに歌ひ出された。姉は瞑目した一心に祈つてゐるやうだ。自分は過し七年の間を考へてみた、病人として了る七年を過した、ある時は人に勸められるまゝに湘南の地に一年を過した事もある、時には山の湯に行たり、自分でもほんとに面白かつたと思ふ程活動した二三ケ月がないでもない。然しそれも人に何も與へてはゐない、よく覺えてゐる事は此上もない我儘ばかりである。よく人は長い病苦に耐へてゐられる、信仰があるからの事だと云ふ。聞く度に冷めたいメスを胸にあてられるやうに感じる。自分はより以上に家族が苦痛に耐へてゐるかを知つてゐる故。七年間の家族が病人に對する犧牲忍耐は誰も量り知る事は出來まい、それも主に由つての忍耐である、決してトゲのある忍耐でない、いつも絕えぬ氣持のいゝ笑顏にあふれた忍耐である、自分の淺い信仰も唯之に由つて漸くつながれてゐるやうだ、その家族へ對してさへ何も與へてゐない。或先生が「病氣の時かへつて力ある傳道が出

祈りを捧げた處が他の者が不思議に感じ「貴君は常に斯くするや」と問ふたが彼は嚴然として「幼にして母に此祈禱を敎へられかつて一度たりとも忘し事なし」と答へられたとか。私には祈禱の出來ない時が度々ある。

ある、自分の淺い信仰も唯之に由つて漸くつなかれてゐるやうだ、その家族へ對してさへ何も與へてゐない。或先生が「病氣の時かへつて力ある傳道が出來るものだ」と勵まされた、自分もせめてはと心掛けてゐない事はない。決して己の病氣を悲しみもしない。自分には自分に相應した使命があるに違ひない、寢てゐても出來る事がある。それはたゞ一つ祈。る事である。それも己の病の癒されんために祈る祈りでない。御用の爲に一身を捧げて働かれる諸先生まだ知らざる人のために祈る。それではその祈りをしつゞけて來たかといはれるとさうでない、神の御前ばかりでなく此月の前に顏を照されるもはづかしい。米國の名大統領ジヨンアダムスは如何なる處でも就寢前必らず聲高らかに主の祈禱を捧げる。大統領となられる前政治家連と共に華府の一旅館に宿つた、就寢前に子供のやうに床に跪づいて聲高く主の

て母に此祈禱を敎へられかつて一度たりとも忘し事なし」と答へられたとか。私には祈禱の出來ない時が度々ある。祈の出來ない時が祈りの一番必要な時とはよく知つてゐる、無理にでも祈る。祈りにも努力がいる。努力ある中の祈りは眞の祈禱でない、物には階梯がある、此階梯を一段〳〵と登つて始めて大きい深い高い淸い祈りが出來る。自分も祈の力を握り度い祈りの生活に生き度い。こゝまで考へて來たら姉が頭をあげた。そして又歌ひ出した。(二)あまつみ國の、たみとならしめ、みきにつらなる、こえだの如く、たゞ主によりて、いかしたまへり、(三)たへにもたふとき、みいつくしみや、もとめずしらず、すごしゝうちに、主はまづわれを、みとめ給へり、(四)おもへばかゝる、み心しらで、そむきまつりし、われこそはげに、げに罪人の、かしこなるかな、細い力ある聲は夜の靜けさを縫ふて、さ

ゝやかな風と和し微妙なメルデーと化し曇りなき月光の清さにいやが上にも清浄化して高く〳〵限りなく響いて行く。

枕もとへ手紙やら新聞やらが運ばれた。その中に小さい新聞のやうなものがあつた「敎友」と云ふ内村先生等に關係のあるらしいものである、開けて見ると時節柄私にとつてよい記事があつた。熱心な傳道師前川義三郎氏が求道に志ざゝれ座古愛子氏を訪問せられし當時の事が座古氏によつて書かれてあつた。前川氏はもと鍛冶職であつた、その義弟に熱心な牧師があつて外國で傳道してゐられたが絶えず書面を送り早く悔改めて道に入るやう澤山の聖句を引いて勸められたが面倒で開封もせず其の儘密柑箱の中に入れ置いた、處が夫人が風呂から歸つて末の子を抱いて寝たきり、翌朝は死んでゐられた、而も少しも苦しまれなかつたと見えて身動もしないで逝かれた。全く夢のやうな出來事に氏は始めて、人生の儚い事と來世といふ必要をみとめられた、男兒三人を遺して逝かれた夫人に、再會の折がなくてはならぬと氣が付くと三年間投り込んであつた、弟子からの書面を取出して、一通つゝ一字一句殘らず熟讀された。書面が密柑箱三つに蓄つてゐたが、どれもこれも皆ヒシ〳〵と胸に釘打たれる樣であつた。亡き夫人へ對して、苦勞ばかりかけた事など思はれ涙をもつて神に祈られた。そして座古氏の著はされた「伏屋の曙」に由つて悲痛やる方のない心に大いなる光を認められた。一度道に入られた氏は勇將軍の勢で本職を捨て傳道師となられ、人の最も困難とする鑛山へ勞働者への傳道につかはされての三年間熱涙を流して、働かれた。今は神戸湊川の新開地の傳道館で働いてゐられると云ふ事である。私にも一人の兄がある、男の兄弟は兄一人である、世間並に随分兩親の寵愛を受けた、男としてはやさしすぎる程おとなしい溫情に富んで青春期を迎へた、が彼の周圍は誘惑で一つぱいであつた。彼の友人はよか

らぬ處へと手ぐすね引いて待つてゐる、酒がある、事あるごとに第一に用ひられるものは酒である。從つて酒屋はいくらもある、かうした處で彼も飲酒家と云ふ立派な肩書がいつの間にかくつついた、母のなげき、悲しみは確かに、母の死期を早めたといつ

今前川氏の御義弟の事實を讀み目の前にさしつけられた責めがある、私共は兄に對して密柑箱三つの書面を送つたらうか、いや三年間に一つの密柑箱に滿つるだけ送つたらうか、私共の愛はたらなかつた、いくら涙をもつて祈つたところで愛がたらないもの

と云ふ立派な肩書がいつの間にかくつついた、母のなげき、悲しみは確かに、母の死期を早めたといつてもうそではあるまい。確に兄は母の重い十字架であつた。今又私共妹に取つても重い十字架である。もう人世の行路に花々しい戰ひをいどまふと云ふ三十路をすぎても妻をめとろともしない、親傳來の仕事も廣めやうともしない、たゞ飮みたい、飮みたい、で過して來た。我々は兄の爲には涙を流して祈つてゐる、此重い十字架をひきづらないでしつかりと脊つてまつすぐに進みたい、進まして頂き度いと祈つてゐる。無學文盲い肉親を導く事は容易でない、理屈をいつたとてわからない、自分等の行動によつて感受させるほか道がない、二百里も離れ住む自分等にそれもむづかしい、何といつても手紙より道がない、手紙によつて導かうと思はぬ事もない、

つるだけ送つたらうか、私共の愛はたらなかつた、いくら涙をもつて祈つたところで愛がたらないものはたらないのだ。幸今兄はやつと妹等を少しづゝ理解して來やうとしてゐる。彼が思ひがけぬおそろしい病名を持つて妹等の家へ來た、然も彼は消然として物におくしたやうにおど／＼しながら來た。兄を迎へる一語は姉（やはり兄の妹）の眞心こめたやさしい溫い言葉であつた、その言葉に兄の顔もおちつくと共にハラ／＼と涙があふれ出た妹二人も泣いた、兄の涙は安心の涙、妹の涙は感謝の涙、あゝやつと願が叶つた、私共に實行する時を與へられた、やらうと勇み立つたのは姉、病床にある自分も勵まされ元氣づけられた、かくして四ケ月の間共に住んだ、兄の顔もやさしみのあるおつさんらしい溫情が出て來た、酒は一口も與へなかつた、又

飲まうともしなつた、酒毒の子孫に與へる恐ろしい事實などもよろこんで聞くやうになつた、自ら進んで講演なども聞きに行くやうになつた、人は自然に歸らねばならぬと自ら悟るやうにもなつた、病も全快はするし、古郷なつかしと感じつゝある今何處に居つても誘惑はつきまとふもの反つて靜かな山の中が彼の目覺めかけてゐる心を考へさすべきよき時と考へ妹等に心を殘しつゝ歸つていつた。長い間放浪の生活からなつかしい骨肉の愛の情けを思ひおこしそれに少しでも浸つた事に由つて吾家、今は住む人もなき吾家、かつては父母の在世の時、兄も妹も溫き膝下に夏は桃畑の木蔭に瓜、西瓜などを井に投り込んでは石に碎いて味はひし涼味、冬は家族一同矩燵を中にいきふき〳〵お甘藷の食競爭と續から續へとつゞく思ひ出の糸にからまれて歸つて行つた兄彼がもう救はれたとはいはれない、いまやつと彼が長い間の疑問であつたキリスト教がどんなものであるかゞわかりかけたばかりだ。失望させたくない。幸今は元氣で喜んで働いてゐる、音信も度々ある、小さな行動の一つも報告する、あれほど傷ついた兄も少しは眞の人間味を知つて來た、その時私の目の前に前川氏の事實をみせられ、強い力を與へられた。之からがもつと〳〵重い十字架である。手紙も書かう、平易な書物も送らう、あらゆる方法で私共の愛を表はそう、投り込まれないやうに兄の心に妹を食ひ入らせよう、そして神の何であるかを知らせよう、何年かゝるか何れない、私が病人として扱はれない以前からの願が今入れられつゝある、時間に制限もない、年月に限りもない、ただ死の間際でもいゝ、神がほんとに知つてもらはれゝばいゝ、がやつぱり早く知つてほしい、感謝の日々よろこびの日々を少しでも味はゝしてあげたい私共の心の願は神が知り給ふ、よきとみたまへば與へ給ふ、信ずべき力を得祈り求めやう。ローマ書にあふれてゐるポーロの熱情は弱い私共をむち打つて呉る、「憶我なやめる人なるかな此の死の體より我を救はん者は誰ぞや、是我等の主エスキリストなるが故に神に感謝す」と兄自らの口から大聲壯語される事を祈りつゝ。……

日曜

落穂集

○第四回少年少女夏期學校
學校大阪部會主催にて、八月四日より七日迄上記の夏期學校を開催

を從に…

一、災害防止に關する研究調査
二、安全博物館の建設維持
三、安全週間又は安全日の實施
四、災害防止に關する展覧會開催
五、災害防止に關する印刷物發行
六、機關雜誌の發行

ては今年の急設電話開設迄に千名の交換手大募集をする筈なるが昨今女事務員の各方面に優遇せらるゝ結果、募集上幾多の支障ありて當局にては目下その待遇その他名

學校大阪部會主催にて、八月四日より七日迄上記の夏期學校を開催されし筈なるが四日五日の兩日はプール女學校に於て六日は大阪教會堂に於て開催すべく、諸名士のお噺は趣味を中心とする呼び物にて、其他體育、手藝、林間禮拜、讃美歌練習、寫生會などの催しある筈なり

（福音新報）

○中央災害防止協會　七月十八日帝國鐵道協會に於て同會創立委員會を開き會則を決定し會長、幹事及評議員指名ありたり。同會は其目的遂行の方法として左の事業

三、安全週間又は安全日の實施
四、災害防止に關する展覽會開催
五、災害防止に關する印刷物發行
六、機關雜誌の發行
七、災害防止に關する講演會開催
　　等

○處女會中央部　七月二十九日東京驛前海上ビルディング内中央亭に於て、同中央部に關し諸名士を招待し懇談會の如きもの催されたり。同會は理事組織にして重要なる事務を處理す、目的は地方處女會の中央擁護機關として相互の連絡統一を圖り其發達助成に努むると共に地方婦人問題の研究調査をなす。

○交換手の改名稱　中央電話局に

ゝ結果、募集上幾多の支障ありて當局にては目下その待遇その他名稱を改め、袴を廢すること等決定されたり。

○救濟基金分配の運動　東京砲兵工廠の職工が救濟會積立金を分配せる例に倣ひ、大阪砲兵工廠の職工も二十三萬二千四十四圓余の救濟基金分配運動を始めその後益々激烈となり、代表者は毎日幹部に迫りつゝありと。

消　息

○新渡戸御夫妻、初秋御歸朝の噂なり。
○淺野總一郎氏、修養會代表者一同のため廣壯なる御邸宅を開放され茶菓の興を與へられたり、來會者一同大なる喜びと滿足とを

以て同邸に於て親睦會を催したり。
○長谷場まさじ氏、神戸女子青年會々長たる氏は東京に開催されし夏季修養會に一週間出席されたり。
○今西糸子氏、女子青年會委員なる氏は數々修養會に列席され開期中地方よりの出席者を青年館に招き茶菓をふるまはれたり。
○野村美智子氏、横濱女子青年會委員の氏も修養會に出席され寄宿舍に一泊されたり。
○磯邊文子氏、英學者磯邊彌一郎氏令孃たる氏は七月二十八日死去さる。
○山本琴子氏、大阪女子青年會幹事なる同氏は初夏より大阪濱寺にて休養されしが尙轉地の必要上輕井澤に八月を送られたり。
○青年會幹事八月中、ミスペーヂ、ミスクロフオード其他數人は輕井澤に、ミスカフマンは札幌、ミスペーカーは大沼公園、河井道子氏は伊勢、加藤高子氏は新潟、堀須子氏北海道、渡邊百合氏は伊豆、其他皆歸國或は轉地さる。九月早々日本及外國幹事等の幹事會を東京附近にて開く事となりたれり。

友垣

米澤　鈴木とく

青年會の皆々様には定めしよき修義會の日を御過しの事と察し申候地方に住む吾々には如何ばかり羨ましくあるかは御察したき事にて近かりせばなど愚痴をこぼし候。

岡山　井口勝子

今年の修養會には出席いたしかね殘念に存じます昔の修養會のたのしかつた有益であつたことを思出し堪られない程なつかしく存じます每日地會の順序書を拜見しながら御祝福を祈つてゐます。

臺中　島田はつ

每月御送り頂く女子青年界はあます處なく拜讀致し皆々樣の御活動振に只管感服いたすと共に御敎への數々我ものに致したくと願ひ居り候。一扨先頃當地に臺北より信者の若夫人來られ候まゝ早速女子青年界を御目に掛け候處數年前に河井先生御渡臺遊ばされし折其母君と共に同先生の御話をきかれしとかにて雜誌を御取り被下る樣御願ひ申上候處心地やう喜び頂くと申され候まゝ此處に其夫人の女子青年界代壹圓御送附申上げ候。

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵稅		内地	海外
	一部	金十錢	金拾三錢
	一年前金	壹圓	金壹圓四拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正七年八月廿八日印刷納本
大正八年九月一日發行
發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督敎女子青年會　電話本局五九八番　振替東京二三七二三番
發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　芝區三田和泉町七番地　前川吉太郎
印刷所　同所　三成舍

cottage for busi-
e a longer vaca-
of its nearness
the cottage for
ed enterprise to
e conditions.
ilding campaign
d a dormitory.
rters which will
go to Carlton
or has not yet
for the future.
me at the Sum-
stage, but the
ory for kinder-
a survey of the
of the city will
eloping recently
, Mrs Suzuko
of the Medical
invitations are
tels while wait-
rious boats and
e has devised
vomen who are
the hotels and
ted are distri-
is planning to
Kisen Kaisha
hird class.
e Toyo Kisen
nagawa to the
nost interesting
een visiting the
st fow months,
Dickinson is a
United States
She attended
local Associa-
a on July 29
ols of Hyogo
. Twenty five
a, lately come
nerican women
e tea was at
of the guests
supplying just

The Tokyo Association is conducting a vacation cottage for ness girls at Kamakura this summer. Those who have a longer tion may go there for a week or more but on account of its nea to Tokyo, parties of girls may also take adventage of the cottag week-end trips It is felt that this is a much needed enterpri give girls a chance for vacation under comfortable safe condition

The Osaka Association is busily planning for a building cam to raise money for an Association Headquarters and a dormi Already they have started a dormitory in rented quarters which accomodate about twenty-five young women.

Miss Fujita of the Kobe Association has left to go to Ca College in Minnesota for further study. Her successor has not been appointed. The Kobe Association has large plans for the fu Mrs Haseba, the president, was present for the full time at the mer Conference this year

The work in Kyoto is still in the pre-organization stage, but plans for the next few months include a small dormitory for kin garten teachers, Bible, English and other classes and a survey of city, in which it is hoped that a number of the women of the city co-operate.

The Emigration work in Yokohama has been developing rece under the supervision of the new Emigration Secretary, Mrs Su Nitobe, Besides visiting the Kencho at the time of the Med examinations, and women who are going abroad there, invitations sent from time to time to the women living in the hotels while w ing for sailing and to the women who arrive on the various boats have a day or two to spend in the port. Mrs Nitobe has dev several new forms of making the work known to the women who planning to go abroad. Notices are being placed in the hotels fans on which the Association announcements are printed are di buted in hotels and boarding houses. The Association is plannin put a few books and magazines on each of the Toyo Kisen Kai boats as a uncleus of a library for the women in the third class.

During the recent Conference, Mr. Asano of the Toyo K Kaisha open his beautiful entertainment house in Shinagawa to delegates for an afternoon reception. The occasion a most interes one to the girls and was heartily appreciated by them

Dr. and Mrs Dickinson of New York, who have been visiting Association work and medical work in China for the past fow mon have been spending a few weeks in Japan. Mrs Dickinson i member of the National Board of the YWCA in the United St and is keenly interested in the Association in Japan. She atten one day at the Summer Conference and has visited each local Asso tion in the five Cities where we have work.

The Kobe Association Social Department gave a tea on July to the Japanese teachers of English in secondary schools of Hy Ken, who were holding a summer institute in the city. Twenty members of the intitute attended and Mr. and Mrs. Fujita, lately c from Yokohama were guests of honor. A number of American wom helped entertain, and especially Miss DeForest, as the tea was Kobe College. Their spokesman expressed on the part of the gu their appreciation of this variation in their routine as supplying the element that was lacking in their program.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN.

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume 16 — September 1919 — Number 89

The forteenth Annual Conference of the Y.W.C.A. in Japan was held in Tokyo, July 22-29th. The dormitory and school rooms of the Eiwa Jo Gakko were thrown open to the Conference for their use and through the courtesy of the Azabu Methodist Church next door the church building was used for the larger gatherings. On account of the large number of delegates, an overflow of fifty girls was housed in the dormitories of Aoyama Jo Gakuin. Altogether there was a registration of 470 delegates, and they represented 59 different schools and five city Associations. Twenty nine schools having regular Associations were represented and the remaining student delegates were from the student departments of the various city Associations. On account of the larger number of girls from non-Christian schools this year, there was a larger percentage of non-Christian girls at the conference. Miss Nakaji of Osaka conducted a Bible Class for inquirers which was well attended, and the interest grew to such an extent that she was requested to hold several extra sessions by the members of the class. By the end of the conference seventy girls had decided to become Christians.

On the last morning of the conference an address on Korea was given by Mr. Yamamoto, who has spent a number of years there in Christian work. At the evening meeting, following the plan of former years, an offering was taken for people in other lands. It was announced that this year it would be given toward the fund that is being raised by the Christians of Japan for the Korean Christians, and 69 yen was contributed for this cause.

The visiting guests from the National Board of the YWCA in America—Miss Hawes, Miss Stafford, Miss Scott, Mrs. Walker and Miss McKillip returned to the United States in July. All of them are most enthusiastic over the possibilities of work in Japan and have agreed to do everything in their power to promote the interests of the Japan Association in America.

Word has been received that Miss Charlotte Adams, Bible Teacher in the National Training School of the YWCA in the United States, will return to Japan from China in late October to remain for several months, helping in the work in Japan.

Miss Onomi, Miss Yokozawa, and Miss Sakamoto—the three young women who have been spending the last three years in Canada and the United States, preparing for YWCA work returned to Japan on the Shinyo Maru in July, and will be ready to take up their new work in the fall.

The National Committee of the YWCA in Japan will move its Headquarters from its present address, 14 Kita Jinbocho, Kanda to 12 Sanchome Tamachi, Ushigome, Tokyo on September 1. This move Tokyo Association now has a membership of more than 700 and has been obliged to hold its Bible Classes in all the various nooks and corners of the building for lack of space. The National Staff also needs larger quarters in which to expand and more committee rooms. Please remember the change in address, as it will facilitate matters very much, if letters do not have to be forwarded.

の節は「女子青年界」の廣告で見たと御申添下さい

FRAMES, PICTURES, POST CARDS.

OKAMOTO, CH KYU-DO & CO,

OGAWAMACHI ST, TOKYO, TEL. HONKYOKU- No. 1100.

SOL AGENTS IN JAPAN

Cosmos Pictures Co. & National Art Co.

New York, U. S. A.

モス繪畫會社◎米國◎ナショナルアート會社

日本總代理店

額縁繪畫繪葉書輸出入

岡本地球堂商店

神田區小川町通

振替東京一九〇七番　電話本局千百番

外國人交際用贈答用品充實完備

內地流行界より一歩づゝ先走つた品物のみ



○意匠、技巧優良

○價格低廉

○信用安全

○取引敏速

永年外國人向にて苦心の點品物に現はれて居る筈です態々横濱迄御用命の甲斐あると確信致します

横濱市辨天通二丁目拾貳番地

辨天商會

後附

宮内省
各宮殿下 御買上八回
桑港萬國大博覽會 銀牌受領
於共進會博覽會 金、銀、銅牌廿餘回受賞
印篆刻
眼鏡一式
指
環
玉

御用の節は「女子青年界」の廣告で見たと御申添下さい

FURS
D. KOMEYA
PROP. C. YAMAOKA,
(TANNER)

Furs, Coats, Stoles, Muffs, Brocade Linings, Slippers, Feathers, and Water-color pictures.

No. 14, Benten-dori, Itchome, Yokohama.
Tel. 3370.

PICTURE DEPT.
No. 4, Benten-dori, Itchome, Yokohama.

BRANCH:
Tel. Shimbashi 2179.
No. 1, Minamikinroku-cho, Kyobashi, Near Shimbashi, Tokyo.

MAIN STORE-NIKKO
Summer Branch Karuizawa

貴婦人令孃用
毛皮コート 襟巻 マフ スリッパー 羽毛
絹裏地 水彩畫類 其他毛皮製品種々
何れも最新流行形いろ〱取揃へてありますから多少にかゝわらず御用命の程御願上げます、又た御贈答品としては最も好適品であります、御注文も御好みに依り入念調製いたします。



横濱市辨天通一丁目十四番地
コメヤ號 山岡商店
電話三三七〇番

東京市京橋區南金六町一番地
コメヤ號 山岡商店
電話新橋二一七九

夏期出張所
信州輕井澤

MARUICHIYA
Manufacturer of and Dealer in
ilk goods, Paper wares and Stationeries,
Wholesale and Retail

Fancy goods department:
No. 8, Benten-dori.
Stationery Department:
No. 9, Benten-dori.
Tel. 4751.

美術雜貨製造販賣
丸一屋
横濱辨天通一ノ八、九番地
電話四七五一

VERYTHING PHOTOGRAPHY
EXPERT KODAK FINISHER
S. MIKADO PHOTO CO
29, Unemecho Kyobashiku
TOKYO JAPAN.
Tel No. 2272. Shimbashi

寫眞器械材料販賣
出寫併寫眞一般應需
美門商會
東京市京橋區采女町
廿九番地歌舞伎座前
電話新橋二二七二番
振替東京一九四九四番

甲斐國産

御申越次第商品目錄進呈

水晶細工品

印篆刻　眼鏡一式　軸掛　装身具　床置物　珠數

指環　中差　簪　櫛　根掛　エリ止　帯〆　守玉　ヒン　カフス釦

印傳袋物

二ッ折札入　財入　弗布　莨入　手提　手袋　スクールパック

共紐　叺　御殿持　巻莨入　火の用心　文人持

（水晶印章篆刻幷に細工品共懇切を旨とし精々勉强仕り
御好みに應じ如何様にも確實に御調進可申上候

商標

玉泉堂

山梨縣甲府市柳町

電話百〇二番

振替口座東京五〇六四番

女子青年界第拾六巻第八號（毎月一回 一日發行）
大正八年八月二十八日印刷納本 大正八年九月一日發行 明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

